

第21表 土器集中出土地点遺物 (16)

探出番号	図の番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	残存率	色調	産地	備考
第72図	14	J-22グリッド-1・非-J-22グリッド-1層	須恵器	坏	128	80	38	50	内一黒 外一灰黄褐	新治	
第72図	15	SD-252-No.9	須恵器	坏	120	59	34	100	灰	南北企	
第72図	16	SD-252	須恵器	坏	118	64	36	100	灰	南北企	墨書「綱」
第72図	17	SX-3	須恵器	坏	133	66	36	50	灰白	南北企	
第72図	18	I-21グリッド-90	須恵器	坏	120	60	36	25	灰白	未野	墨書「綱」
第72図	19	I-20グリッド-39	須恵器	坏	123	62	38	40	灰	南北企	墨書「成」
第72図	20	包含層中	須恵器	坏	122	32	33	20	灰	南北企	墨書「第成」
第72図	21	J-22グリッド	須恵器	坏	-	60	-	25	灰	南北企	墨書「主」
第72図	22	J-22グリッド-32 1~4層	須恵器	坏	-	60	-	15	灰	南北企	墨書「主」
第72図	23	J-22グリッド-No.43	須恵器	坏	-	70	-	40	灰	南北企	
第72図	24	H-20グリッド-79	須恵器	坏	-	58	-	5	灰	南北企	墨書「土」
第73図	1	I-20グリッド-7	須恵器	坏	-	62	-	25	にぶい橙	南北企	
第73図	2	J-22グリッド-63 1~4層	須恵器	坏	-	66	-	10	灰	未野	墨書「主」
第73図	3	I-22グリッド-51	須恵器	坏	-	68	-	10	黄灰	南北企	墨書「土」カ
第73図	4	I-21グリッド	須恵器	坏	-	59	-	5	灰白	南北企	墨書「土」カ
第73図	5	J-22グリッド-43 1~4層	須恵器	坏	-	70	-	5	灰白	南北企	墨書「土」
第73図	6	J-22グリッド-32 1~4層	須恵器	坏	-	64	-	25	灰白	未野	
第73図	7	J-22グリッド 1~4層	須恵器	坏	-	70	-	5	灰白	未野	墨書「文」
第73図	8	包含層中	須恵器	坏	-	66	-	20	灰	南北企	墨書「綱」
第73図	9	J-21グリッド	須恵器	坏	-	62	-	10	灰	南北企	墨書「綱」
第73図	10	I-21グリッド	須恵器	坏	120	56	37	30	灰	南北企	
第73図	11	I-20グリッド-10	須恵器	坏	132	57	36	30	褐灰	未野	
第73図	12	I-20グリッド-40	須恵器	坏	125	56	36	80	灰白	南北企	墨書「十」
第73図	13	I-20グリッド-10	須恵器	坏	124	57	38	95	にぶい橙	南北企	
第73図	14	I-21グリッド-No.7	須恵器	坏	115	50	35	90	褐灰	南北企	
第73図	15	J-22グリッド-63 1~4層	須恵器	坏	120	59	36	40	灰	未野	
第73図	16	I-20グリッド-10	須恵器	坏	126	52	32	40	灰	未野	
第73図	17	H-15グリッド	須恵器	坏	-	56	-	30	灰	未野	
第73図	18	H-15グリッド	須恵器	坏	-	56	-	10	灰白	東金子	
第73図	19	J-23グリッド 一括	須恵器	坏	-	60	-	20	灰	南北企	墨書「綱」
第73図	20	H-20グリッド 谷斜面	須恵器	坏	-	57	-	20	灰白	未野	墨書「成」大カ
第73図	21	J-22グリッド-43 1~4層	須恵器	坏	-	62	-	10	灰白	南北企	墨書「綱」
第73図	22	J-22グリッド-63 1~4層	須恵器	坏	-	56	-	10	灰	南北企	墨書「綱」カ
第73図	23	I-20グリッド-20	須恵器	坏	-	53	-	15	橙	南北企	
第73図	24	J-22グリッド-42 1~4層	須恵器	坏	-	58	-	10	灰	南北企	墨書「綱」
第73図	25	J-20グリッド-No.28	須恵器	坏	127	51	36	25	灰白	未野	
第73図	26	J-22グリッド-43 1~4層	須恵器	坏	-	46	-	20	灰	南北企	
第73図	27	I-21グリッド-28	須恵器	坏	110	74	37	15	灰	秋間カ	
第73図	28	J-22グリッド-1	須恵器	坏	114	67	39	25	灰	秋間カ	
第73図	29	J-21グリッド-10	須恵器	坏	156	-	-	5	灰白	南北企	墨書「人君」
第73図	30	J-21グリッド-20	須恵器	坏	140	-	-	10	灰白	南北企	墨書「成」
第73図	31	J-22グリッド-43 1~4層	須恵器	坏	135	-	-	5	灰白	南北企	墨書「第成」
第74図	1	J-21グリッド-19	須恵器	坏	134	-	-	5	灰白	南北企	墨書「第成」
第74図	2	J-22グリッド	須恵器	坏	140	-	-	5	灰	南北企	墨書「第成」
第74図	3	包含層中	須恵器	坏	136	-	-	5	灰	南北企	墨書「土」成カ
第74図	4	J-21グリッド-9	須恵器	坏	128	83	34	5	灰	南北企	墨書「第成」
第74図	5	J-22グリッド-1	須恵器	坏	129	-	-	5	灰	南北企	墨書「成見部」
第74図	6	J-21グリッド-9	須恵器	坏	124	-	-	10	灰	南北企	墨書「成」第成カ

第22表 土器集中出土地点遺物 (17)

探洞番号	図の番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	残存率	色調	産地	備考
第74図	7	J-21グリッド	須恵器	坏	127	-	-	5	灰	南比企	墨書「土万呂」
第74図	8	J-21グリッド-10	須恵器	坏	128	-	-	10	灰	南比企	
第74図	9	J-22グリッド-43 1~4層	須恵器	坏	125	-	-	5	灰	南比企	墨書「呂」カ
第74図	10	J-21グリッド-25	須恵器	坏	132	-	-	5	灰	南比企	墨書「少君」
第74図	11	J-21グリッド-10	須恵器	坏	130	-	-	5	灰	南比企	墨書「下」
第74図	12	J-22グリッド-32 1~4層	須恵器	坏	128	-	-	5	黄灰	南比企	墨書「口」□門カ
第74図	13	J-22グリッド-13	須恵器	坏	129	-	-	10	灰	南比企	墨書「小君」
第74図	14	J-21グリッド-9	須恵器	坏	124	-	-	10	にぶい橙	南比企	墨書「人君」
第74図	15	J-22グリッド-42	須恵器	坏	129	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	16	J-22グリッド-13	須恵器	坏	125	-	-	5	灰	南比企	墨書「小君」
第74図	17	J-21グリッド-20	須恵器	坏	130	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	18	J-21グリッド-20	須恵器	坏	129	-	-	5	黄灰	新治	
第74図	19	J-21グリッド-20	須恵器	坏	128	-	-	5	灰	新治カ	
第74図	20	J-22グリッド一括	須恵器	坏	118	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	21	SD-131 北半	須恵器	坏	119	-	-	10	灰	南比企	墨書「成」
第74図	22	包含層中	須恵器	坏	118	-	-	10	灰	南比企	墨書「九人」
第74図	23	J-21グリッド-10	須恵器	坏	124	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	24	J-22グリッド	須恵器	坏	120	-	-	20	灰	南比企	墨書「成」
第74図	25	J-21グリッド-10	須恵器	坏	121	-	-	5	灰白	南比企	墨書「口」
第74図	26	J-21グリッド-20	須恵器	坏	112	55	31	10	灰	南比企	墨書「成」
第74図	27	J-20グリッドNo.29	須恵器	坏	112	-	-	30	灰	南比企	
第74図	28	I-21グリッド89	須恵器	坏	109	-	-	5	灰	南比企	
第74図	29	J-21グリッド-19	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	30	I-21グリッド-70	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	31	J-22グリッド-61	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「土」十カ
第74図	32	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	33	I-21グリッド-59	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「網」
第74図	34	J-21グリッド	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「君」
第74図	35	J-21グリッド-9	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「第」
第74図	36	I-21グリッド-100	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	37	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「第」
第74図	38	J-21 地山直上	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「網」
第74図	39	I-21グリッド-100	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「井」
第74図	40	J-21グリッド-19	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	41	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	42	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	43	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	44	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	45	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	46	J-22グリッド-11	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	47	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	48	J-22グリッド-62	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「第」
第74図	49	I-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「第」
第74図	50	J-22グリッド-11	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	51	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「成」
第74図	52	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」
第74図	53	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	10	黄灰	南比企	墨書「成」
第74図	54	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「成」

第23表 土器集中出土地点遺物 (18)

検出番号	原の番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	残存率	色調	産地	備考
第74図	55	SD-131 北半	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「第成」
第74図	56	I-22グリッド-22	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「第成」
第74図	57	I-21グリッド-96	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	末野	刻書「□」
第74図	58	I-22グリッド-91~93	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	末野	墨書「我」カ
第74図	59	H-20グリッド-89	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	末野	墨書「カ」我カ
第74図	60	I-21グリッド-80	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「□」
第74図	61	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「那」恭成カ
第74図	62	I-21グリッド-48	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「□」
第74図	63	J-21グリッド-19	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	刻「□」 誠ひか
第74図	64	J-22グリッド	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「第成」
第74図	65	SE-44	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「第」
第74図	66	SD-252	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「第成」
第74図	67	J-22グリッド-43 1~4層	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「上」
第74図	68	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「少覇」
第74図	69	J-22グリッド 一括	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「第成」
第74図	70	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「君」
第74図	71	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「第」
第74図	72	J-21グリッド	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「第」
第74図	73	J-21グリッド-100	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「中」カ
第75図	1	J-21グリッド-10	須恵器	坏	-	93	-	5	灰	南比企	墨書「中」
第75図	2	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「綱」
第75図	3	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰黄	南比企	墨書「土」
第75図	4	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「中」
第75図	5	J-21グリッド	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「下」
第75図	6	I-21グリッド-90	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「土万」
第75図	7	SD-252	須恵器	坏	-	-	-	5	にぶい黄橙	南比企	墨書「中」
第75図	8	J-22グリッド-33 1~4層	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「中」
第75図	9	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「中」
第75図	10	I-22グリッド-91~93	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「綱」土万カ
第75図	11	SD-252	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「綱」土カ
第75図	12	J-22グリッド-33	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「□」 綱カ
第75図	13	包含層中	須恵器	坏	-	-	-	5	にぶい黄橙	南比企	墨書「綱」
第75図	14	J-21グリッド	須恵器	坏	-	-	-	5	灰	南比企	墨書「綱」
第75図	15	J-21グリッド-20	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「中」
第75図	16	I-22グリッド-51	須恵器	坏	-	-	-	5	灰白	南比企	墨書「主」 綱カ
第75図	17	グリッド-21グリッド-7	須恵器	無台皿	150	81	18	50	灰	南比企	
第75図	18	I-21グリッド	須恵器	無台皿	155	71	16	30	灰	東金子	
第75図	19	I-20グリッド-19・28	須恵器	高台付皿	130	63	17	35	内-灰 外-にぶい赤褐	南比企	
第75図	20	I-20グリッド-10	須恵器	高台付皿	126	74	26	60	内-黒 外-橙	末野	
第75図	21	I-21グリッド-70	須恵器	佐波理模倣埴	158	-	-	10	灰白	南比企	
第75図	22	I-21グリッド-69	須恵器	埴埴	-	-	-	5	灰	末野	
第75図	23	J-22グリッド-13	須恵器	無台埴	160	89	52	10	灰	南比企	
第75図	24	J-22グリッド	須恵器	無台埴	169	102	56	15	灰	南比企	
第75図	25	I-21グリッド-13	須恵器	無台埴	148	80	55	25	灰白	南比企	
第75図	26	I-21グリッド	須恵器	無台埴	-	10	-	5	灰	秋間	
第75図	27	I-21グリッド	須恵器	無台埴	-	90	-	10	灰	秋間カ	
第75図	28	I-21グリッド-54	須恵器	高台付坏	160	113	42	30	灰白	秋間カ	
第75図	29	J-21グリッド-10・20	須恵器	高台付坏	-	121	-	5	内-灰白 外-灰	末野	

第24表 土器集中出土地点遺物 (19)

探図番号	図の番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	残高	色調	産地	備考
第75図	30	1-21グリッド	須恵器	高台付坏	165	127	80	80	褐	末野	
第76図	1	J-21グリッド	須恵器	長頸壺	-	86	-	10	灰	頼朝源	
第76図	2	J-21グリッド 地山直上	須恵器	高台付埴	156	107	45	30	灰白	南比企	墨書「仲人」中人
第76図	3	SD-252	須恵器	高台付埴	120	88	42	100	灰	南比企	
第76図	4	1-21グリッド・1-21グリッド-43	須恵器	高台付埴	-	97	-	15	灰	秋岡	
第76図	5	J-21グリッド20	須恵器	高台付埴	-	95	-	5	灰白	南比企	
第76図	6	SD-283	須恵器	高台付埴	-	-	-	10	灰白	末野	
第76図	7	1-21グリッド-66 1~4層	須恵器	高台付埴	160	-	-	30	にぶい橙	南比企	
第76図	8	J-21グリッド-12	須恵器	高台付埴	166	-	-	10	内-灰白 外-灰	南比企	
第76図	9	J-21グリッド-12	須恵器	高台付埴	-	104	-	5	灰白	南比企	
第76図	10	J-21グリッド-3	須恵器	高台付埴	-	-	-	15	灰白	南比企	
第76図	11	J-21グリッド-8・10	須恵器	高台付埴	-	-	-	20	内-灰白 外-灰	南比企	
第76図	12	J-21グリッド-19	須恵器	高台付埴	121	-	-	5	灰白	末野	
第76図	13	J-21グリッド-50 J-22グリッド-51	須恵器	高台付埴	-	60	-	10	灰	南比企	
第76図	14	1-21グリッド-d	須恵器	高台付埴	-	72	-	10	灰	秋岡	
第76図	15	SD-283	須恵器	高台付埴	173	104	72	45	灰白	末野	
第76図	16	J-22グリッド-63 1~4層	須恵器	高台付埴	-	70	-	20	灰白	末野	墨書「主」綱カ
第76図	17	J-21グリッド-63 1~4層	須恵器	高台付埴	-	81	-	10	灰白	末野	
第76図	18	1-20グリッド-10	須恵器	高台付埴	136	67	61	15	内-褐灰 外-灰	末野	
第79図	1	1-20グリッド-20	須恵器	高台付埴	143	75	53	90	灰	末野	
第79図	2	1-21グリッド-79	須恵器	高台付埴	-	85	-	15	灰白	南比企	
第79図	3	H-20グリッド-79	須恵器	高台付埴	-	78	-	15	灰	末野	墨書「綱」カ
第79図	4	J-22グリッド-31	須恵器	高台付埴	-	85	-	5	灰	末野	
第79図	5	1-20グリッド-9	須恵器	高台付埴	135	-	-	40	灰	末野	
第79図	6	1-21グリッド	須恵器	高台付埴	-	74	-	20	内-にぶい橙 外-灰白	末野	
第79図	7	1-20グリッド-39	須恵器	高台付埴	-	80	-	20	灰	末野	墨書「綱」
第79図	8	J-21グリッド-39	須恵器	高台付埴	-	71	-	20	内-灰 外-灰白	南比企	
第79図	9	1-20グリッド-7	須恵器	高台付埴	110	74	51	45	灰	南比企	
第79図	10	J-22グリッド-63	須恵器	高台付埴	-	75	-	10	内-灰 外-暗青灰	末野	
第79図	11	J-21グリッド	須恵器	高台付埴	-	58	-	40	褐灰	利根川	
第79図	12	J-21グリッド-b	須恵器	高台付埴	-	62	-	10	灰白	利根川	
第79図	13	J-21グリッド-21	黒色土器	坏	129	64	41	25	内-黒 外-にぶい橙	利根川	
第79図	14	J-22グリッド-42	黒色土器	坏	-	67	-	5	内-にぶい橙 外-にぶい橙	利根川	
第79図	15	1-21グリッド-69	黒色土器	高台付埴	-	67	-	5	内-黒 外-にぶい橙	利根川	
第79図	16	1-21グリッド-69	黒色土器	高台付埴	-	-	-	5	内-黒 外-にぶい橙	利根川	
第79図	17	グリッド-18グリッド	黒色土器A	埴	-	-	-	5	黒	利根川	
第79図	18	J-21グリッド-10	黒色土器A	短頸壺	52	51	48	90	黒	新・越後	
第79図	19	1-21グリッド	黒色土器A	小形鉢	98	69	64	40	内-明褐灰 外-褐灰	利根川	
第79図	20	1-21グリッド-d	須恵器	耳皿	-	45	-	40	灰白	南比企	墨書「下」
第79図	21	1-20グリッド-49	土師器	高脚高台付埴	-	-	-	10	にぶい橙	利根川	
第79図	22	H-21グリッド-79	灰釉陶器	皿	123	-	-	10	灰白	猿投	
第79図	23	SD-59-No.1	灰釉陶器	皿	134	74	30	60	灰白	東濃	墨書「口」越後
第79図	24	J-21グリッド 北半	灰釉陶器	皿	-	70	-	5	灰白	二川	
第79図	25	包含層中	灰釉陶器	皿	-	80	-	5	灰白	東濃	
第79図	26	J-20グリッド-c	灰釉陶器	碗	-	82	-	10	灰白	東濃	
第79図	27	1-21グリッド-70 1~4層	灰釉陶器	碗	-	71	-	20	灰白	東濃	
第81図	1	J-23グリッド-No.13	土師器	高坏	-	146	-	40	褐灰	利根川	
第81図	2	J-21グリッド-16	土師器	有段口縁高坏	-	76	-	50	橙	利根川	

第25表 土器集中出土地点遺物 (20)

採回番号	図の番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	残存率	色調	産地	備考
第81図	3	SD-131北半	土師器	有段口縁高坏	111	73	51	70	内-明黄褐 外-灰褐	利根川	
第81図	4	SD-131北半	土師器	有段口縁高坏	100	70	51	50	橙	利根川	
第81図	5	I-21グリッド	土師器	高坏	-	83	-	10	にぶい橙	利根川	
第81図	6	SE-44	土師器	高坏	-	-	-	30	浅黄橙	利根川	
第81図	7	I-21グリッド	土師器	高坏	-	-	-	20	浅黄橙	利根川	
第81図	8	I-21グリッド SX-4	土師器	高坏	-	96	-	40	橙	利根川	
第81図	9	I-20グリッド-9	土師器	高坏	-	100	-	30	橙	利根川	
第81図	10	J-21グリッド-28	須恵器	高坏	120	-	-	5	暗灰黄	南比企	
第81図	11	包含層中	須恵器	高坏	-	86	-	10	灰白	南比企	
第81図	12	包含層中	須恵器	高坏	-	-	-	5	灰白	南比企	
第81図	13	SE-44	須恵器	仏鉢模倣土器	143	-	-	5	灰	南比企	
第81図	14	J-22グリッド-11	須恵器	コップ形土器(南)	74	65	77	50	灰	南比企	黒書「□」
第81図	15	SD-131 北半	須恵器	コップ形土器(南)	58	-	-	20	灰	南比企	
第81図	16	I-20グリッド-9	須恵器	コップ形土器(南)	-	80	-	10	灰	南比企	
第81図	17	I-21グリッド-95	土師器	瓶(包弾形)	174	-	-	5	内-にぶい黄橙 外-黒褐	利根川	
第81図	18	I-20グリッド-18	土師器	長胴壺	286	-	-	10	にぶい黄橙	比企・人間	
第81図	19	I-21グリッド-68 1~4層	土師器	バケツ形瓶	262	-	-	5	橙	利根川	
第81図	20	I-21グリッド-29	土師器	包弾形瓶	239	-	-	5	にぶい黄橙	利根川	
第81図	21	I-22グリッド-22	土師器	壺	196	-	-	5	にぶい橙	利根川	
第81図	22	I-21グリッド-75	土師器	包弾形瓶	180	-	-	5	にぶい黄橙	利根川	
第81図	23	J-21グリッド-66	土師器	壺	200	-	-	10	浅黄橙	利根川	
第81図	24	J-21グリッド-18	土師器	壺	182	-	-	10	にぶい黄橙	利根川	
第81図	25	SD-252	土師器	壺	192	-	-	20	にぶい褐	利根川	
第82図	1	I-21グリッド	土師器	壺	180	-	-	15	にぶい橙	利根川	
第82図	2	J-22グリッド-23	土師器	長胴壺	190	-	-	15	内-にぶい黄橙 外-橙	利根川	
第82図	3	I-20グリッド-28	土師器	壺	207	-	-	15	にぶい黄橙	利根川	
第82図	4	I-20グリッド-39	土師器	コの字口縁壺	204	-	-	20	橙	利根川	
第82図	5	I-21グリッド-36	土師器	壺	250	-	-	15	内-褐灰 外-にぶい橙	利根川	
第82図	6	I-21グリッド-6	土師器	長胴壺	219	-	-	5	にぶい橙	利根川	
第82図	7	J-21グリッド-15・27 地山直上	土師器	壺	241	-	-	10	明赤褐	利根川	
第82図	8	J-21グリッド-65	土師器	長胴壺	231	-	-	15	橙	利根川	
第82図	9	J-22グリッド	土師器	有段口縁長胴壺	216	-	-	5	内-灰黄褐 外-にぶい黄橙	利根川	
第82図	10	I-20グリッド-28	土師器	コの字口縁壺	200	-	-	10	橙	利根川	
第82図	11	I-21グリッド	土師器	長胴壺	170	-	-	5	内-灰褐 外-にぶい橙	利根川	
第82図	12	J-21グリッド-20	土師器	長胴壺	184	-	-	15	橙	利根川	
第82図	13	I-21グリッド-11	土師器	コの字口縁壺	161	-	-	5	内-にぶい橙 外-灰黄褐	利根川	
第82図	14	J-21グリッド	土師器	有段口縁小形壺	160	-	-	5	内-にぶい黄橙 外-灰黄褐	利根川	
第82図	15	J-22グリッド-42	土師器	有段口縁小形壺	131	-	-	5	黒褐	利根川	
第82図	16	J-21グリッド-25~28	土師器	有段口縁小形壺	132	-	-	5	にぶい橙	利根川	
第82図	17	I-21グリッド-1	土師器	小形壺	119	-	-	5	内-にぶい黄橙 外-黒褐	利根川	
第82図	18	I-21グリッド-90	土師器	小形壺(胎カ)	-	-	-	20	内-灰褐 外-黒褐	利根川	
第83図	1	包含層中	須恵器	壺	129	-	-	5	内-灰褐	南比企	
第83図	2	I-21グリッド-64	須恵器	壺	93	-	-	10	灰	南比企	
第83図	3	SD-252	須恵器	壺	-	-	-	5	浅黄橙	南比企	
第83図	4	J-21グリッド-38	須恵器	壺	-	-	-	5	灰	南比企	刻書
第83図	5	I-21グリッド-67	須恵器	短頸壺	96	-	-	5	内-灰白 外-灰	南比企	
第83図	6	I-21グリッド	須恵器	短頸壺	112	-	-	10	灰	南比企	
第83図	7	I-21グリッド-32	須恵器	短頸壺	85	-	-	5	灰	東金子	

第26表 土器集中出土地点遺物 (21)

探頭番号	図の番号	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	残存率	色調	産地	備考
第83図	8	J-21グリッド	須恵器	短頸壺	124	-	-	20	橙	南北金	
第83図	9	J-21グリッド-30	須恵器	脚付小形壺	-	-	-	30	灰白	湘西	
第83図	10	H-21グリッド-c	須恵器	短頸壺	68	-	-	15	灰	南北金	
第83図	11	I-22グリッド-51 1~3層	須恵器	短頸壺	48	-	-	10	灰白	南北金	
第83図	12	J-21グリッド9	須恵器	短頸壺	-	-	-	70	灰白	南北金	漆付着土器
第83図	13	I-21グリッド-79	須恵器	小形壺	42	-	-	5	灰白	湘西	
第83図	14	J-21グリッド-a	須恵器	長頸瓶	-	-	-	5	内-褐灰 外-灰白	南北金	
第83図	15	I-21グリッド	須恵器	長頸瓶	-	-	-	20	灰白	東海西部	
第83図	16	J-22グリッド	須恵器	長頸瓶	73	-	-	10	灰褐	東海西部	
第83図	17	I-21グリッド	須恵器	長頸瓶	-	-	-	20	灰白	東海西部	
第83図	18	I-22グリッド-22	須恵器	長頸瓶	106	-	-	25	オリーブ灰	南北金	
第83図	19	I-21グリッド-59 1~4層	須恵器	長頸瓶	-	-	-	40	灰	南北金	
第83図	20	I-21グリッド-6	須恵器	長頸瓶	-	-	-	20	灰白	東海西部	
第83図	21	J-21グリッド-24	須恵器	長頸瓶	-	96	-	20	灰	秋間カ	
第83図	22	J-22グリッド	須恵器	長頸瓶	-	-	-	20	灰白	南北金	
第83図	23	I-20グリッド-7	須恵器	長頸瓶	-	76	-	10	灰白	東海西部	
第83図	24	J-22グリッド	須恵器	長頸瓶	-	-	-	10	灰	南北金	刻書
第85図	1	I-21グリッド-34	須恵器	フラスコ瓶	-	-	-	10	灰白	湖西	
第85図	2	I-21グリッド-49 1~3層	須恵器	フラスコ瓶	-	108	-	10	暗オリーブ褐	猿投	
第85図	3	J-21グリッド-No.1	須恵器	淨瓶	-	-	-	20	灰白	東海西部	
第85図	4	グリッド-20グリッド 谷斜面	須恵器	提瓶	-	-	-	50	灰	南北金	
第85図	5	I-21グリッド-86 I-21グリッド	須恵器	平瓶	-	-	-	40	黄灰	東海	
第85図	6	SD-252	須恵器	紡錘車	-	-	-	100	灰白	末野	
第85図	7	I-21グリッド-66 1~4層	須恵器	壺	152	-	-	10	内-灰 外-灰白	南北金	
第85図	8	I-21グリッド-66 1~4層	須恵器	壺	132	-	-	10	灰	南北金	
第85図	9	I-21グリッド-17	須恵器	壺	194	-	-	10	灰	南北金	
第85図	10	I-21グリッド-12	須恵器	壺	155	-	-	10	内-灰 外-暗青灰	南北金	
第85図	11	J-21グリッド	須恵器	壺	170	-	-	5	灰	南北金	
第85図	12	J-21グリッド-5・6・7	須恵器	壺	192	-	-	10	内-灰白 外-灰	南北金	
第85図	13	I-21グリッド-J-21グリッド	須恵器	壺	219	-	-	5	内-灰白 外-灰	南北金	
第85図	14	J-21グリッド	須恵器	壺	218	-	-	10	灰	末野	
第85図	15	I-21グリッド	須恵器	壺	220	-	-	10	暗青灰	東海西部	
第85図	16	J-21グリッド-20	須恵器	壺	238	-	-	5	灰	末野	
第87図	1	J-21グリッド-95 J-21グリッド	須恵器	壺	246	-	-	20	灰	東海西部	
第87図	2	I-21グリッド	須恵器	壺	-	-	-	10	灰	南北金	
第87図	3	SD-131北半	須恵器	壺	-	167	-	5	灰白	南北金	
第87図	4	J-21グリッド-10	須恵器	大壺	348	-	-	5	内-灰白 外-灰	秋間カ	
第87図	5	I-21グリッド-24・34・35・83	須恵器	大壺	430	-	-	15	暗灰	南北金	
第87図	6	J-22グリッド-63	須恵器	大壺	-	-	-	10	灰	南北金	

第27表 6・7世紀の貯蔵・煮沸具

(1) 表口縁裏

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
E20	7	1	E20	56	1	E21	36	2
E20	8	6	E20	90	1	E21	37	2
E20	9	7	E20	96	2	E21	38	1
E20	10	3	E20	100	1	E21	38-39	1
E20	18	10	E21	63	1	E21	48	2
E20	19	20	E21	79	1	E21	25-28	2
E20	20	1	E21	5	39	E21	a	1
E20	27	5	E21	5	4	E21	a	24
E20	28	9	E21	8	4	E22	2	2
E20	29	6	E21	9	5	E22	12	3
E20	37	4	E21	10	1	E22	13	2
E20	38	3	E21	15	1	E22	21-31	2
E20	39	5	E21	19	3	E22	23	2
E20	40	1	E21	20	3	E22	32	2
E20	47	1	E21	27	1	E22		29
E20	49	2	E21	28	3	表採		3
E20	50	3	E21	30	6			

(2) 有段口縁裏

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
E20	19	1	E21	25-28	1	E21	96	1
E20	39	1	E21		2	E21	25-28	3
E21	1	1	E22	61-71・81	1	E21	a	2
E21	4	1	E22		1	E21		5
E21	6	1	E21	8	1	E21	12	1
E21	14	1	E21	11	1	E21	42	5
E21	29	2	E21	28	1	E21	43	2
E21	35	1	E21	29	1	E21	53	1
E21	73	1	E21	35	1	E21		1
E21	100	1	E21	42	1	E21		

(3) 比企型裏

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
E21	2	1	E21	27	1
E21	16	1	E21		1

(4) 飯

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
E21	18	4	E21	37	1	E21	97	2
E21	49	1	E21	48	1	E21	91-100	1
E21	1	1	E21	75	1	E21		1
E21	3	1	E21	76	1	E21	8	1
E21	6	1	E21	77	1	E21	10	1
E21	11	1	E21	80	1	E21	27	1
E21	17	1	E21	86	1	E21		3
E21	27	2	E21	90	1	E21	12	1
E21	28	1	E21	95	1	E21		1
E21	29	1						

(5) 煮

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
H19	1	1	E21	48	1	E22	31	1
E20	1	2	E21	59	1	E22	42	2
E20	7	1	E21	60	1	E22		1
E20	19	7	E21	63	1	E21	5	1
E20	28	1	E21	64	1	E21	6	1
E20	29	1	E21	65	2	E21	8	1
E20	38	1	E21	66	6	E21	9	2
E20	49	1	E21	68	1	E21	15	1
E21	6	2	E21	70	1	E21	18	1
E21	12	1	E21	74	2	E21	20	1
E21	14	1	E21	75	2	E21	30	1
E21	15	1	E21	76	1	E21	35	1
E21	18	1	E21	83	1	E21	65	1
E21	27	3	E21	86	1	E21		12
E21	28	1	E21	89	1	E22	2	1
E21	35	2	E21	90	2	E22	22	1
E21	36	1	E21	99	2	E22	23	1

E21	38	1	E21	100	2	E22	43	3
E21	39	1	E21	91-93	2	E22	51	1
E21	42	1	E21		11	E22	74	1
E21	45	1	E21	22	1	E22		1

(6) 鉢

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
H20	80	1	E20	57	2	E21	17	1
E20	69	1	E20	59	1	E21	20	1
E21	8	1	E20	68	1	E21	27	3
E21	16	1	E20	80	1	E21	28	1
E21	17	1	E20	99	1	E21	29	1
E21	18	2	E20	100	1	E21	25-28	1
E21	19	2	E20		8	E22	53	1
E21	35	3	E20	51	1	表採		1
E21	45	13	E20	24	1			
E21	47	2	E21	16	1			

第28表 8世紀の貯蔵・煮沸具

(1) 裏

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
H19		5	E21	8・7・8	4	E21	16	4
H20	50	1	E21	64	1	E21	17	2
H20	79	1	E21	65	1	E21	20	21
H20	80	1	E21	66	2	E21	30	5
H20	88	1	E21	67	1	E21	34	1
E20	7	1	E21	68	6	E21	36	2
E20	18	1	E21	69	1	E21	37	1
E20	20	1	E21	70	4	E21	38	2
E20	28	1	E21	74	4	E21	40	3
E20	29	1	E21	75	5	E21	47	1
E20	39	1	E21	76	9	E21	50	2
E20		1	E21	77	2	E21	55	2
E21	1	1	E21	78	3	E21	80	1
E21	2	2	E21	79	3	E21	87	1
E21	3	1	E21	80	3	E21	94	1
E21	6	3	E21	84	2	E21	a	3
E21	7	3	E21	85	2	E21	b	1
E21	9	1	E21	86	1	E21		12
E21	10	2	E21	87	2	E22	1	3
E21	11	3	E21	90	2	E22	2	5
E21	12	1	E21	91-100	1	E22	6	1
E21	13	1	E21	96	4	E22	11	4
E21	14	2	E21	97	3	E22	12	4
E21	15	1	E21	100	3	E22	13	3
E21	16	4	E21	c	1	E22	22	1
E21	18	4	E21	F8	1	E22	23	3
E21	19	1	E21		35	E22	32	1
E21	27	2	E22	11	1	E22	33	2
E21	29	1	E22	22	6	E22	42	1
E21	30	1	E22	51	3	E22	43	3
E21	33	1	E22	69	1	E22	45	1
E21	35	1	E22	79	1	E22	51	1
E21	37	1	E22	91-93	2	E22	53	4
E21	45	1	E22		1	E22	62	2
E21	50	1	E20	58	1	E22	63	1
E21	52	1	E21	6	5	E22	71	2
E21	55	1	E21	7	4	E22	74	1
E21	56	2	E21	8	2	E22		15
E21	57	2	E21	9	2	表採		1
E21	58	1	E21	10	10			

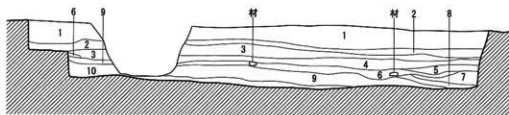
第29表 9世紀の貯蔵・煮沸具

(1) 裏

グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数	グリッド	枝番	点数
E20	28	1	E21	7	1	E21	e	1
E20	29	1	E21	9	1	E21	15	1
E20	30	1	E21	11	1	E21		
E20	39	2	E21	14	2	E21		13
E20	49	1	E21	32	1	E22	b	1
E20	70	2	E21	87	1	E22		3



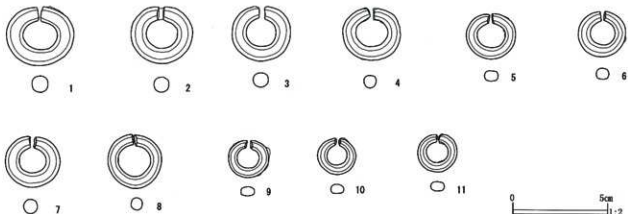
第89图 土器集中出土地点出土状况



- 1 暗褐色土 炭化物土器が少 Fe多
 2 暗褐色土 炭化物土器が少 Fe多 粗砂を含む
 3 暗褐色土 土器片と暗褐色粘土質が堆積
 4 暗褐色粘土 粗砂がブロック状にまじりあり
 炭化物 充形の杯多し 材もこの層以下に堆積する
 5 4と同じだが、粗砂の割合少ない
 6 黄褐色の粗砂層 層厚上下とも極めて明確
 7 灰緑色を帯び粗砂層 暗褐色粘質土ブロックも含む
 8 6と同じ
 9 暗緑色の粗砂層
 10 灰褐色粘質層 上面に土器を含む

0 1.00

第90図 土器集中出土地点の標準土層



第91図 土器集中出土地点の遺物 (43)

第30表 土器集中地点出土遺物耳環

挿図番号	図の番号	出土位置	器種	技法	高さ	幅	厚さ	重量	備考
第91図	1	J-21	耳環	銅地銀張り	31	35	9	37.1	
第91図	2	J-22	耳環	銅地金銅(銀)張り	30	33	8	29.4	
第91図	3	J-22	耳環	銅地銀張り	28	31	8	24.2	
第91図	4	X-55	耳環	銅地金銅(銀)張り	27	30	7	18.0	
第91図	5	I-21	耳環	銅地金銅張り	24	26	5	15.0	
第91図	6	X-53	耳環	銅地金銅張り	24	25	6	14.9	
第91図	7	G-22	耳環	銅地銀張り	26	29	7	21.4	
第91図	8	SX-4	耳環	銅地金銅(銀)張り	28	20	6	13.5	
第91図	9	I-21	耳環	金銅(銀)張り	28	21	5	9.8	
第91図	10	I-21	耳環	銅地銀張り	19	21	5	7.5	
第91図	11	I-21	耳環	銅地金銅張りか	20	21	5	10.6	

12. 井戸枠

井戸枠のみられた井戸跡は、第12・13・18・21・25・42・55・58・69・74・80・85号井戸跡の12基である。井戸枠の構造については、第92図を参照願いたい。なお、「井戸構造の名称」は、北陸中世考古学研究会2001の図を編集した。

第21号井戸跡井戸枠

第21号井戸跡は、井籠組構造の六段組みである。

第93図1～4は、東側の枠材である。

全長は936～966mm、幅は118～170mm、厚さは48～68mm、内法は546～676mmである。

1は、第4段の枠材で柵目材である。上下面・内外面に加工痕が残る。幅104～132mmの仕口を作る。

2は、第3段の枠材で柵目材である。上下面・内外面に加工痕が残る。幅120mmの仕口を作る。

3は、第2段の枠材で柵目材である。上下面・内外面に加工痕が残る。幅88～120mmの仕口を作る。

4は、第1段の枠材で柵目材である。内外面に加工痕が残る。幅94mmの仕口を作る。

第93図5・6は、西側の枠材である。

全長は(648)～930mm、幅は100～144mm、厚さは42～58mm、内法は510～564mmである。

5は、第4段の枠材で柵目材である。内外面に加工痕がみられ、下面には枠材による圧痕が残る。幅122～126mmの仕口を作る。

6は、第1段の枠材で柵目材である。上面・内外面に加工痕が残る。下面に圧痕が残る。

第94図1～4は、南側の枠材である。

全長は930～936mm、幅は82～144mm、厚さは44～76mm、内法は534～592mmである。

1は、第4段の枠材で柵目材である。加工痕は残らない。一箇所仕口が残っている。

2は、第3段の枠材で柵目材である。上下面・内外面に加工痕がみられ、下面に枠材による圧痕が残る。幅82～100mmの仕口を作る。

3は、第2段の枠材で柵目材である。内外面に僅かに加工痕が残る。2箇所仕口が残る。幅86～98mmの仕口を作る。

4は、第1段の枠材で柵目材である。内面に加工痕が残る。幅120～146mmの仕口を作る。

第94図5・6は北側の枠材である。

全長は(666)～(696)mm、幅は102～112mm、厚さは48～60mm、内法は(552)～(596)mmである。

5は、第2段の枠材で柵目材である。内面に加工痕が残る。幅120mmの仕口が一箇所残るが、元来は二箇所だったと考えたい。

6は、第1段の枠材で柵目材である。加工痕は残らない。仕口が一箇所残るが、5と同様二箇所仕口だったと考えたい。

枠材には、二箇所の仕口と四箇所の仕口のものがある。段及び方位による区別は認められない。

全長は、930～966mmであり、ほぼ同じ長さであった。幅は、82～170mmである。段数や方位と関係しない。枠材は、井戸枠を組むときにその場で調整して用いたと考えた。

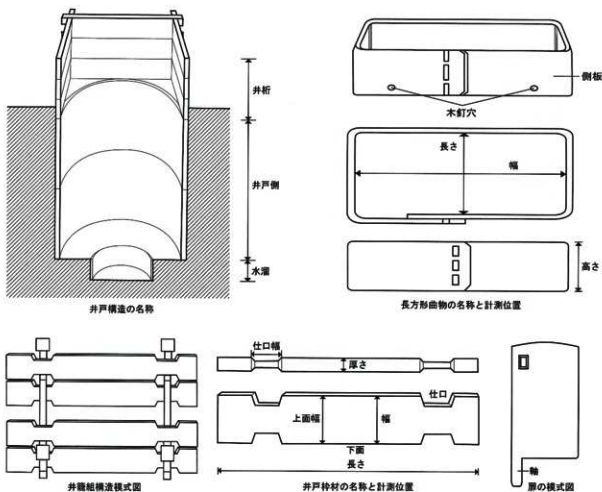
内法は、東面・西面とも一段から四段へと狭小化する一方、南北面はその傾向が見られない。

枠材は、丸太材を柵目に割り、割った面を僅かに調整し、高さ調整のため上下面を削って作る。

仕口は、手斧で端部側から中心部に向かって削り、作り出したと考えた。厚さのある枠材では二列、薄い枠材では一列の加工痕が残る。加工痕は、幅25mmである。

仕口の形は、全ての枠材で「レ」の字状に作られ、いずれも同様の形である。また、仕口幅は、80～100mmと規格に大きな差はない。

これらから、枠材は、丸太材を削って作っており、部材の転用であった可能性は低い。



第92図 井戸の構造・枠材の名称および計測位置

第42号井戸跡井戸枠

本井戸は、水溜部と井戸側部からなる。

水溜部の構造は、まず四枚の板を幅700mm、長さ800mm、高さ500mmの箱型に組む。そして板と掘方の間には、割材と柵目材を積み上げる。

井戸側部は、井籠組構造の12段組みである。東西の枠材二本を設置した後、南北の枠材二本を設置する。高さ等の調整のため段間や掘り方との間には、半載または四つ割の材が詰められている。

第96図～第98図は、南西側の枠材である。

全長は882～1734mm、幅は78～264mm、厚さは54～258mm、内法は606～1140mmである。

第96図1は、第12段の枠材で半載材である。

2は、第11段の枠材で半載材である。上下を削って平らにする。

3は、第10段の枠材で半載材である。上部、仕口付近を削る。仕口部は、細かい加工痕が残る。

4は、第9段の枠材で半載材である。上部を削り、高さを調整する。左側の仕口は「コ」の字形ではなく、半円形である。加工は粗い。

5は、第8段の枠材で半載材である。他の枠材に比べ、非常に薄く幅も狭い。幅30mm、長さ85mmの粗い加工痕が一部に残る。

第97図1は、第7段の枠材で半載材である。幅36

mm、長さ84mmの大まかな加工痕が残る。半載した材に半円形の仕口を作る。

2は、第6段の杵材で丸太材である。丸太材に半円形の仕口を作る。樹皮が残る。

3は、第5段の杵材で丸太材である。7と同様の作りであり、樹皮が残る。

4は、第4段の杵材で板目材である。内外面を幅34mm、長さ64mmで削り、板状に作られる。仕口には、繰り返し削った痕跡が残る。

第98図1は、第3段の杵材で半載材である。一部に幅34mm、長さ11mmの粗い削りが施される。細かい加工痕は残らない。仕口の作りも粗い。

2は、第2段の杵材で板目材である。上下や表裏面を削って板状に作られ、細かい加工痕は残らない。仕口は、上部に開く。

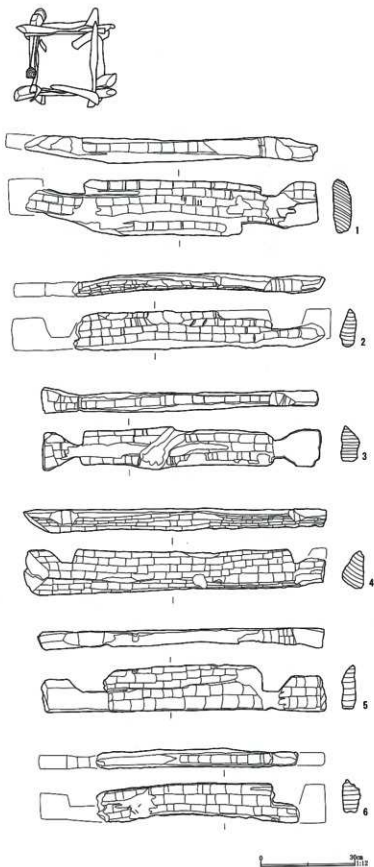
3は、1段の杵材で半載材である。内外面には、細かい加工痕が残らない。仕口には、細かい加工痕が残る。

4は、第1段の杵材と水溜部の板の間に積まれたもので丸太材である。材を切り落とした痕跡以外は、加工痕は残らない。

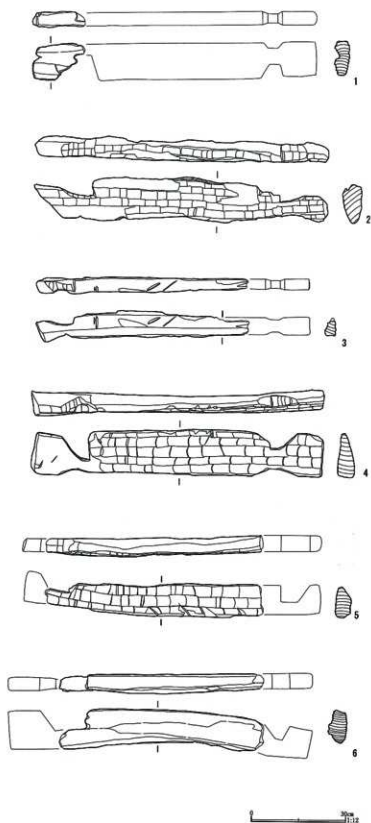
杵材の大きさや、加工の丁寧さ等大きな差はなく、木取りのみが異なる。第2・4段は板状の材、第5・6段は丸太材、それ以外の八段は、半載した割材を使用していた。

第99図～第101図は、北側の杵材である。

全長は1478～1968mm、幅は144～288mm、厚さは72～246mm、内法は71



第93図 第21号井戸跡井戸杵(1)



第94図 第21号井戸跡井戸杵(2)

4～1002mmである。

第99図1は、第12段の杵材で半截材である。内面、仕口とも細かい加工を施していない。

2は、第11段の杵材で、半截材である。仕口に細かい加工痕が残る。幅の長い「コ」の字形で丁寧に作られる。

3は、第10段の杵材で柾目材である。内面の突出部分が削り剥がされる。仕口は、「コ」の字形に作られる。

4は、第9段の杵材で半截材である。他の杵材よりも内外面の加工痕がやや多い。

第100図1は、第8段の杵材で丸太材である。下部を削って平らにし、削り剥がした面は、幅50mm、長さ90mmほどの単位で加工を加え、平らにする。仕口には、加工痕が数多く残り、手間がかかる。右の仕口の形は、梁材または桁材を転用した可能性を示す。

2は、第7段の杵材で丸太材である。丸材に半円形の仕口を付ける。樹皮面に加工痕が残らない。

3は、第6段の杵材で半截材である。外に大きく開く仕口を作る。

4は、第5段の杵材で丸太材である。丸材に仕口を作る。樹皮面に加工痕は残らない。

第101図1は、第4段の杵材で半截材である。削り剥がした面には、幅45mm、長さ70mm程の加工痕が多数残る。仕口にも多数の加工痕が残り、手間のかかった材である。

2は、第3段の杵材で半截材であ

る。上部・内面が削られている。仕口に、細かい加工痕が残るが、雑な作りである。第42号井戸の枠材の中では、手間のかかった材である。

3は、第2段の枠材で半載材である。加工痕はほとんど残らない。

4は、第1段の枠材で板目材である。第42号井戸枠では珍しく、内外面の全面に幅50mm、長さ70mm程の加工が残る。仕口にも細かい加工痕が多く残り、他に比べ120mmと深い仕口を作る。

5は第1段と水溜部の板材の間に積まれた丸太の隙間材である。樹皮を削った加工痕がわずかに残る。

第102図1～第104図4は、西側の枠材である。全長は1548～1824mm、幅は138～258mm、厚さは84～168mm、内法は714～990mmである。

第102図1は、12段の枠材で割材である。欠損がひどく、全体はわからない。

2は、第11段の枠材で半載材である。樹皮面には、幅50mm、長さ160mmの加工痕が残る。仕口は、雑な作りである。

3は、第10段の枠材で半載材である。内外面には、幅60mm、長さ70mmの加工痕が残る。仕口は、丁寧に作る。

4は、第9段の枠材である。割り裂いた面には、わずかな加工痕が残る。

第103図1は、第8段の枠材で半載材である。割り裂いた面には、加工痕はほとんど残らない。

2は、第7段の枠材で半載材である。加工痕は、ほとんど残らない。仕口は、細かく削り、丁寧に作る。

3は、第6段の枠材で丸太材である。丸太材に仕口を二箇所作る。仕口は、細かく削り丁寧に作る。

4は、第5段の枠材で半載材である。割り裂いた面には、まったく加工痕が残らない。仕口は、「コ」の字形に作られる。

第104図1は、第4段の枠材で半載材である。上面を丁寧に三単位で削るが、割り裂いた面には、加工が施されぬ。仕口には、非常に多くの加工痕が

残り、手間がかかる。

2は、第3段の枠材で半載材である。割り裂いた面には、幅70mm、長さ164mmの加工痕が残る。仕口は、丁寧に作る。

3は、第2段の枠材で柵目材である。上面・内外面には、僅かに幅30mm、長さ82mmの加工痕が残る。他の枠材に比べると幅は138mmと短く、厚さも84mmと非常に薄い。また仕口の幅・深さも小さい。

4は、第1段の枠材で板目材である。内外面の全面に亘って、幅70mm、長さ90mmで削られ、板状に作る。仕口の加工痕も多数残り、丁寧に作る。

第105～第107図は、東側の枠材である。全長は1428～1746mm、幅は150～294mm、厚さは90～222mm、内法は696～984mmである。

第105図1は、第12段の枠材で板目材である。板状に作るが、とくに加工痕は残っていない。

2は、第11段の枠材で半載材である。上面の一部には、幅40mm、長さ75mmの加工痕が残る。仕口は、「コ」の字形に丁寧に作る。表面の非常に荒れた材である。

3は、第10段の枠材で半載材である。割り剥がした面の全面を、幅10mmの加工で削り取る。

4は、第9段の枠材で半載材である。割り剥がしたままの材で加工痕はほとんど残らない。

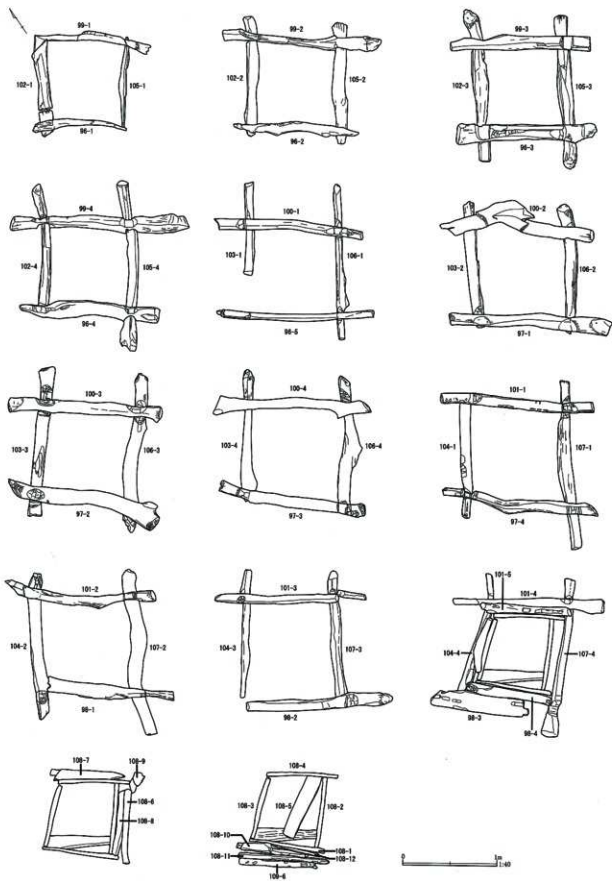
第106図1は、第8段の枠材で半載材である。ほとんど加工痕は残らない。仕口の形は、他の枠材になく、幅30mmとかなり大きく開いている。

2は、第7段の枠材で半載材である。割り裂いた面に幅20mm、長さ80mmの加工痕が残る。

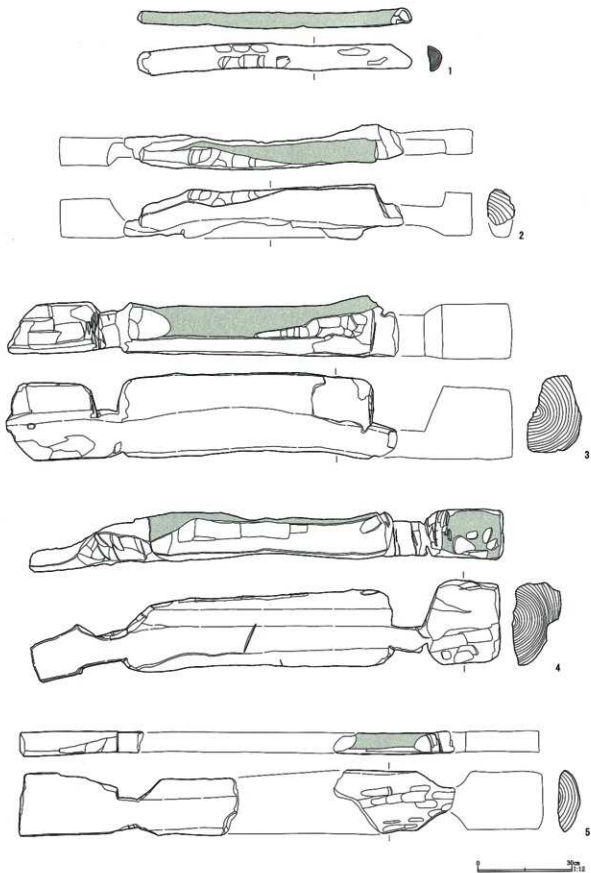
3は、第6段の枠材で丸太材である。丸太材に仕口を三箇所作り、仕口の上部は大きく開く。

4は、第5段の枠材で半載材である。割り裂いた面の一部には、幅60mm、長さ50mmの加工痕が、多数残る。仕口は、何度も削った跡が残る。手間のかかった材である。

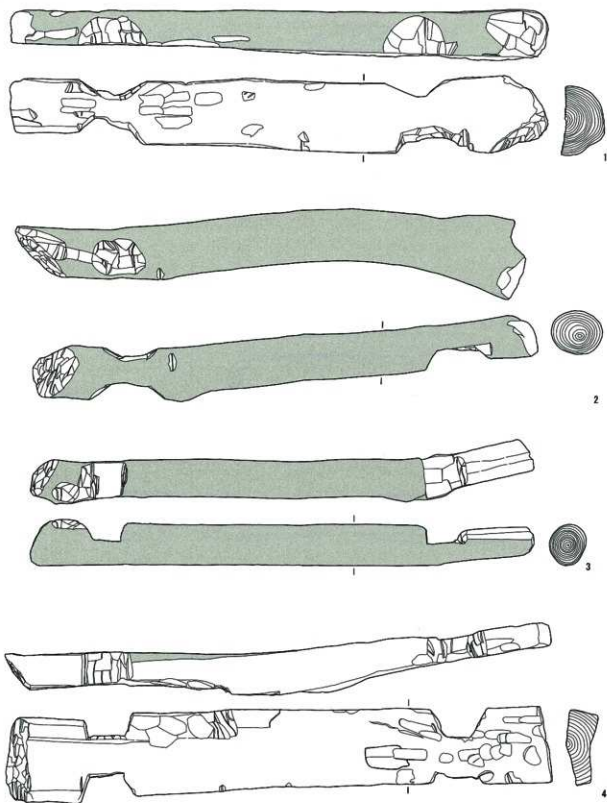
第107図1は、第4段の枠材で半載材である。割り裂いた面には、幅30mm、長さ116mmの加工痕が残る。



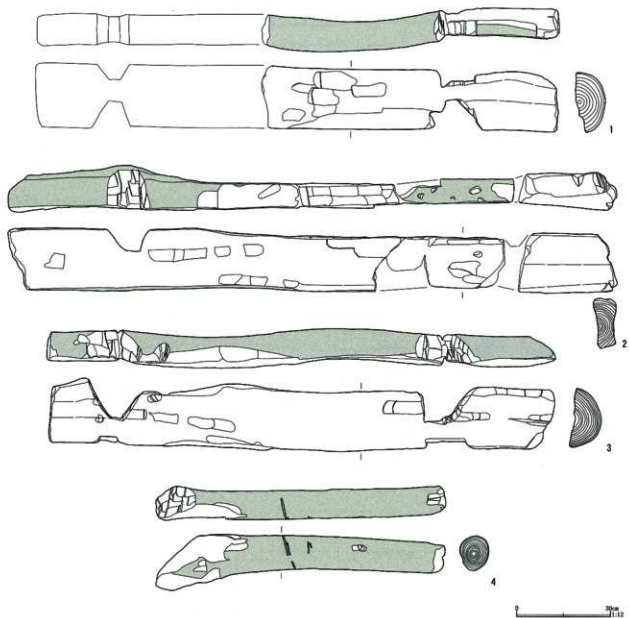
第95図 第42号井戸跡井戸枠組み上げ図



第96図 第42号井戸跡の南西面井戸杵（1）



第97図 第42号井戸跡の南西面井戸枠（2）



第98図 第42号井戸跡の南西面井戸枠 (3)

る。仕口は、丁寧に作る。

2は、第3段の枠材で半截材である。ほとんど加工はない。仕口は、何回も削った跡が残る。

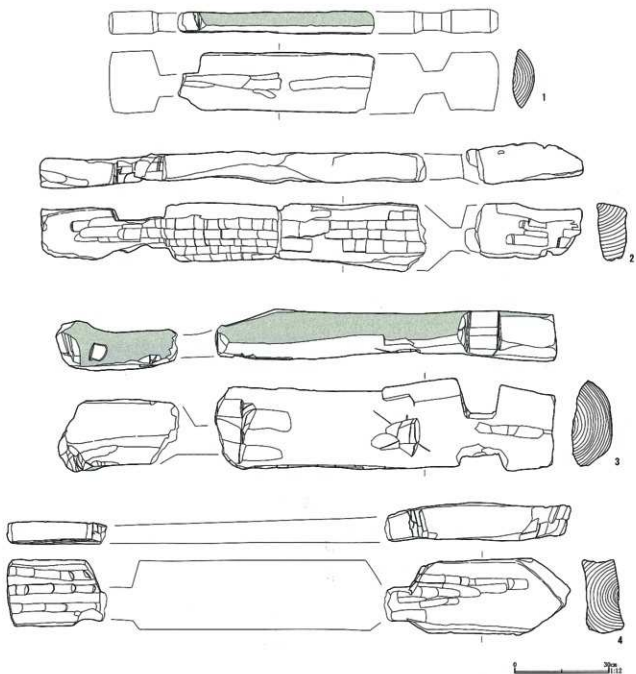
3は、第2段の枠材で半截材である。割り裂いた面は、幅80mm、長さ60mmである。材の中央が大きく削られる。幅・厚さ・仕口とも他に比べて小さい。

4は、第1段の枠材で半截材である。割り裂いた面には、ほとんど加工痕が残らない。上面全面は、

幅50mm、長さ100mmで細かい加工痕が残る。仕口も、丁寧に作る。

第108図1～5は、水溜部で箱型に組まれていた材である。全面を幅60mm、長さ54mm単位で丁寧に削り、部材の転用と考えた。

第109図1～20、第110図1～21は、枠材の段間や裏込め等に用いた材である。割材のみで丁寧に加工された痕跡はない。



第99図 第42号井戸跡の北東面井戸枠（1）

第109図1～17は、半截にした材である。1～7の先端には、切り落とした痕跡が残る。8～15は、半截のみで加工痕は残らない。16・17は半截後、樹皮を削った材である。

第109図18～20、第110図1～5は、四ツ割にした材である。

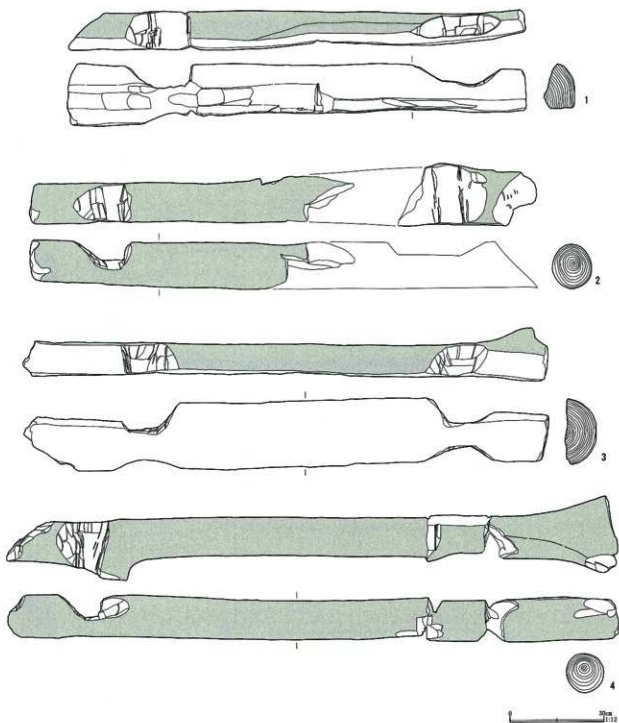
第110図6は柁目材である。

7・8は板目材である。

9～18は割材である。なお16～18には、角を落としたときの加工痕が残る。

19～21は丸太材である。

最長の材は、全長1704mmである。その他は、216



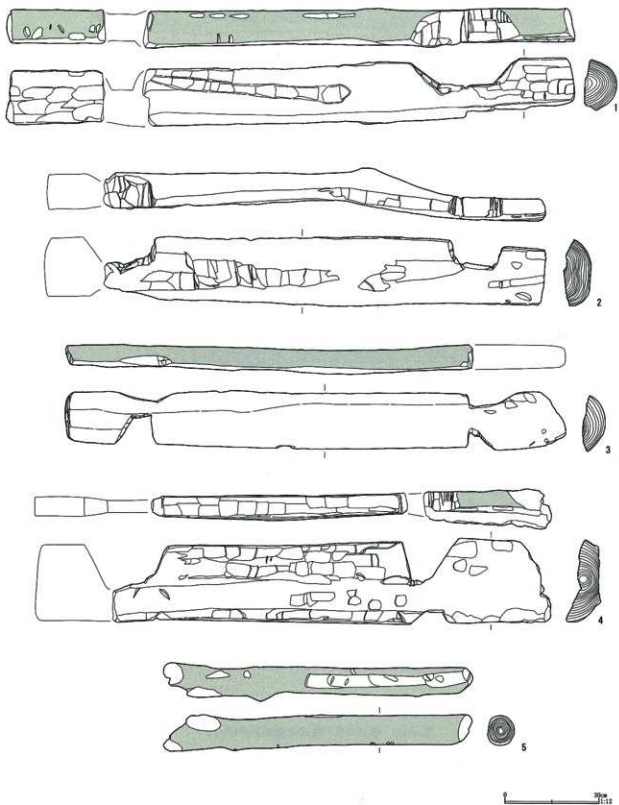
第100図 第42号井戸跡の北東面井戸杵（2）

～1068mmに取まる。それぞれの材の長さは、200～300mm・500mm・700mm・1000mmである。

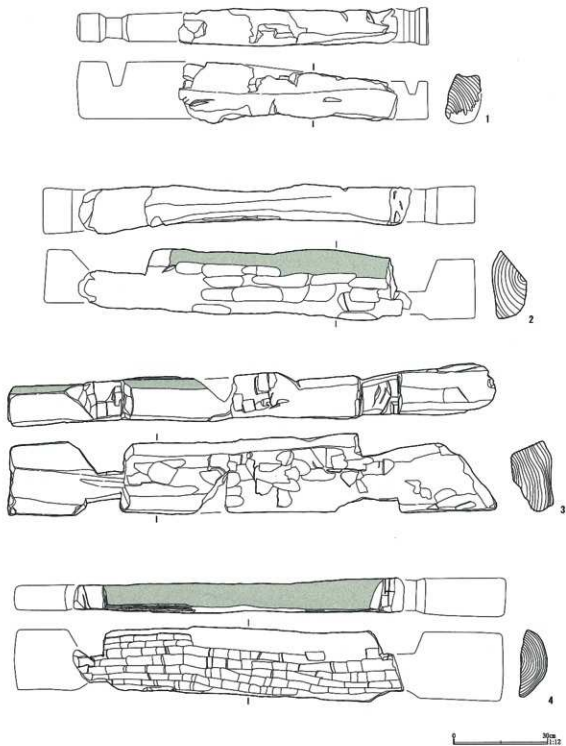
これらの杵材には、仕口以外の加工痕はない。杵材両端部には、伐採具（斧）の刃物痕が残るのみで

ある。また丸太を半截、もしくはみかん割りをしてから若干の整形を施す。

木取りについては、段ごとの差異がほとんど認められない。しかし第5段の南側の杵材と、第6段の



第101図 第42号井戸跡の北東面井戸杵（3）

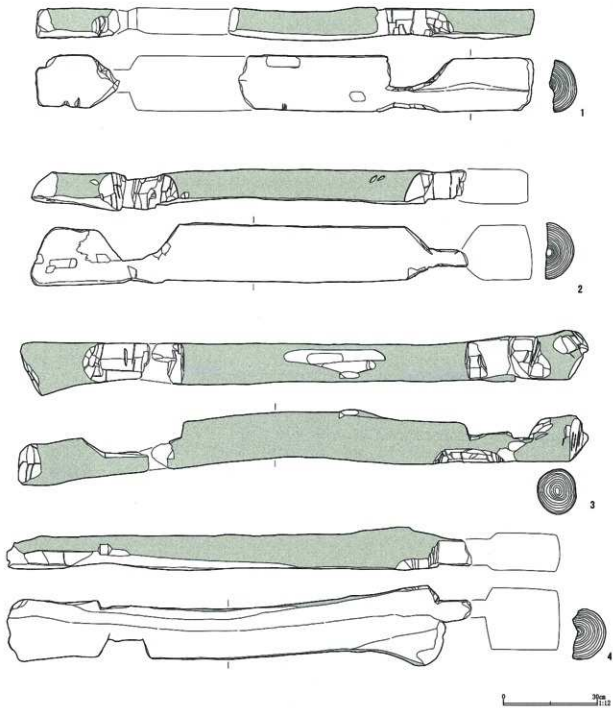


第102図 第42号井戸跡の北西面井戸枠（1）

四本は、丸材を連続して積み上げている。また、第1・2段は、丁寧に板状に加工した材を用いた。丸太材および半載材は井戸枠用に準備されたと考

えるが、板状に削った第97図4、第101図4、第104図4は、本来、別の製品だったと考えたい。

第100図1は、仕口の形状から梁材、または桁材



第103図 第42号井戸跡の北西面井戸杵（2）

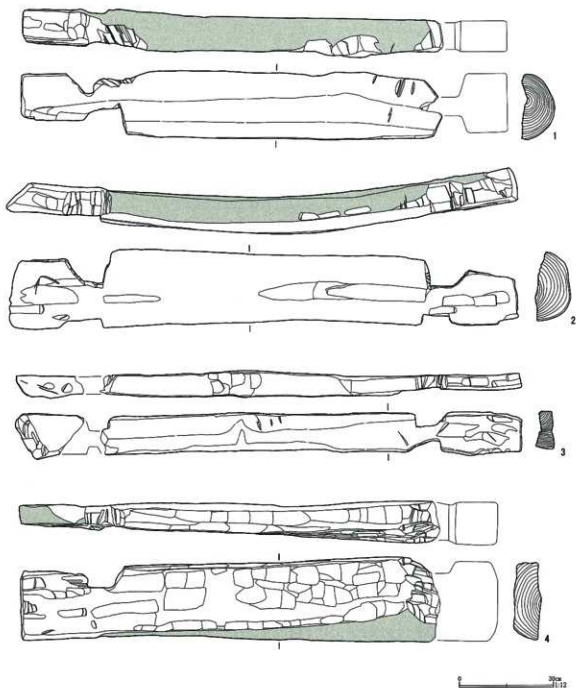
と考えた。また、第108図1～5も本来は、別の製品だと考えた。

第85号井戸跡井戸杵

第85号井戸跡は、水溜部と井戸側部からなる。

水溜部は、最下部の長方形曲物を据え、曲物内側に四本の支柱を放射状に差し込み、その上に材を積み重ね、さらに材の四面に板を巡らせていた。

井戸側部は、井籠組である。東側・西側の杵を設置した後、南側・北側の杵を設置する。井戸杵は、



第104図 第42号井戸跡の北西面井戸枠 (3)

12段を組み上げた。枠材の上下や内外には、半截、またはみかん割の材を高さの調整や裏込めのために詰めていた。

第112図1～7、第113図1～5は、北側の枠材である。

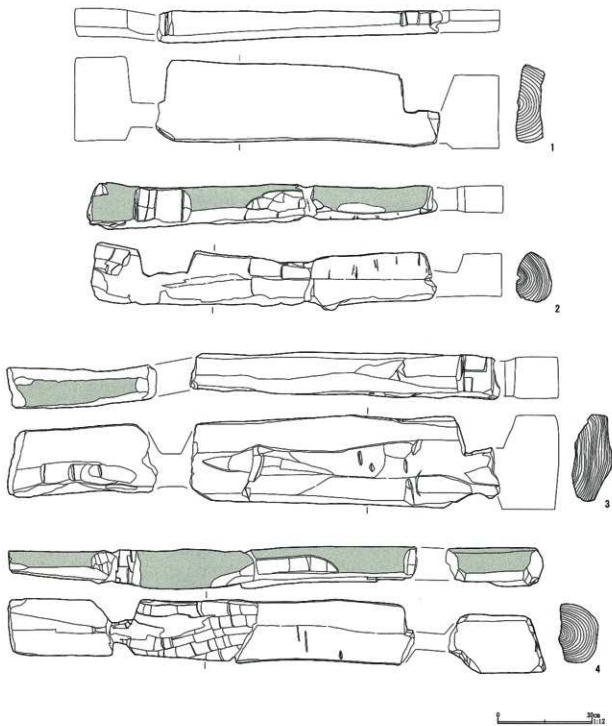
全長は528～1474mm、幅は102～264mm、厚さは46

～104mm、内法は444～842mmである。

第112図1は、第12段の枠材で割材である。欠損がひどく、原形をとどめていない。

2は、第11段の枠材で割材である。1と同様、欠損がひどく、原形をとどめていない。

3は、第10段の枠材で板目材である。仕口以外に



第105図 第42号井戸跡の南東面井戸枠（1）

は、加工痕は残らない。下面には、枠材による圧痕が残る。

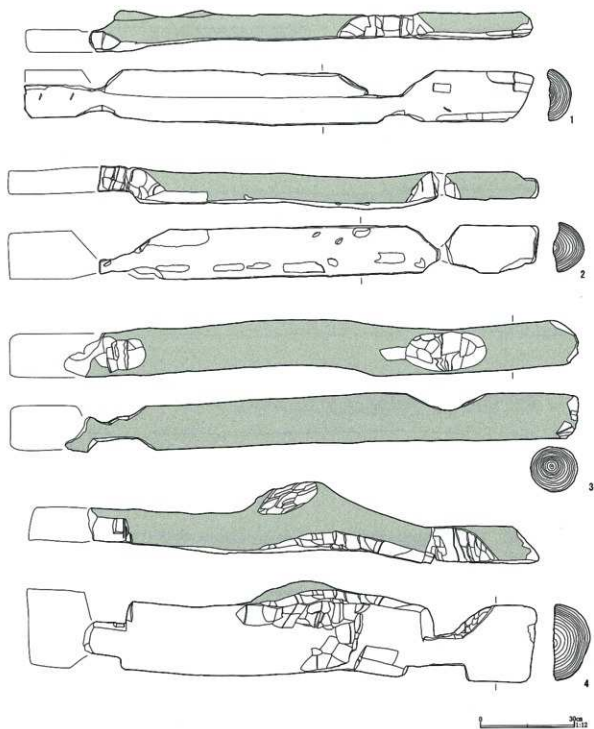
4は、第9段の枠材で柱目材である。内外面を幅50mm、長さ100mmの大きさに削る。

5は、第8段の枠材である。内外面に幅45mmの加

工痕が僅かに残る。

6は、第7段の枠材で板目材である。内外面に僅かに加工痕が残る。

7は、第6段の枠材で柱目材である。上下面・内外面に僅かな加工痕が残る。



第106図 第42号井戸跡の南東面井戸枠（2）

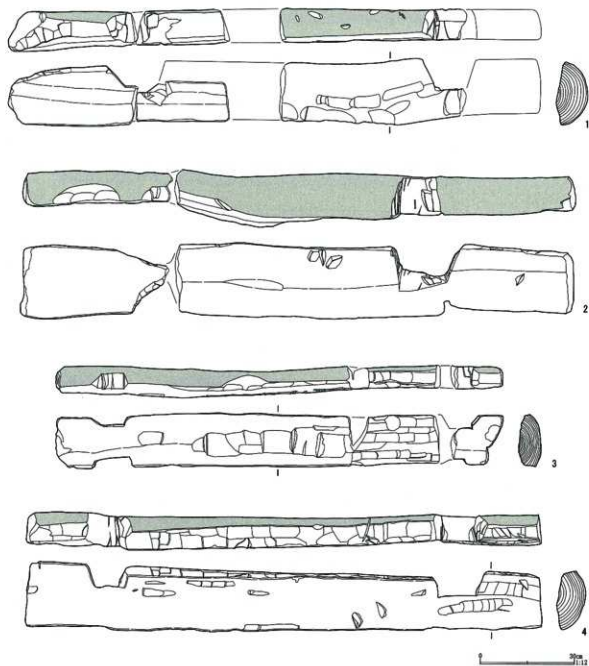
第113図1は、第5段の枠材で板目材である。内外面の全面を削り、板状に丁寧を作る。上下面・内外面には、加工痕が残る。

2は、第4段の枠材で板目材である。上下面・表裏面に加工痕が残り、外面には、樹皮の側を削って、

板状にした痕跡が残る。

3は、第3段の枠材で板目材である。外面には、樹皮の側を削った加工痕が残る。

4は、第2段の枠材で板目材である。上下面・表裏面に加工痕が残る。



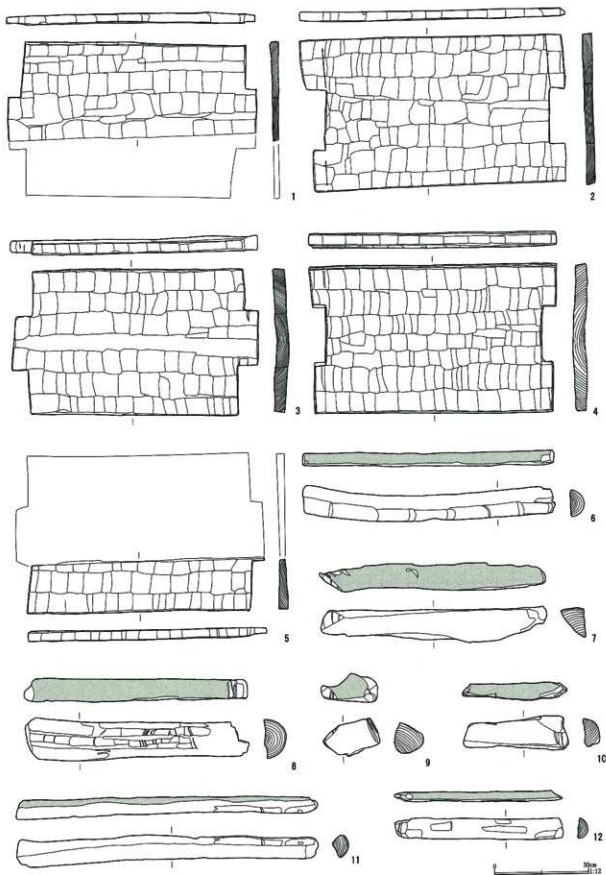
第107図 第42号井戸跡の南東面井戸枠（3）

5は、第1段の枠材で柂目材である。上面は幅約20mmの加工痕が残る。内外面の全体にも加工痕が残る。仕口は、六箇所作られ、枠材としての使用は、外側の四箇所である。

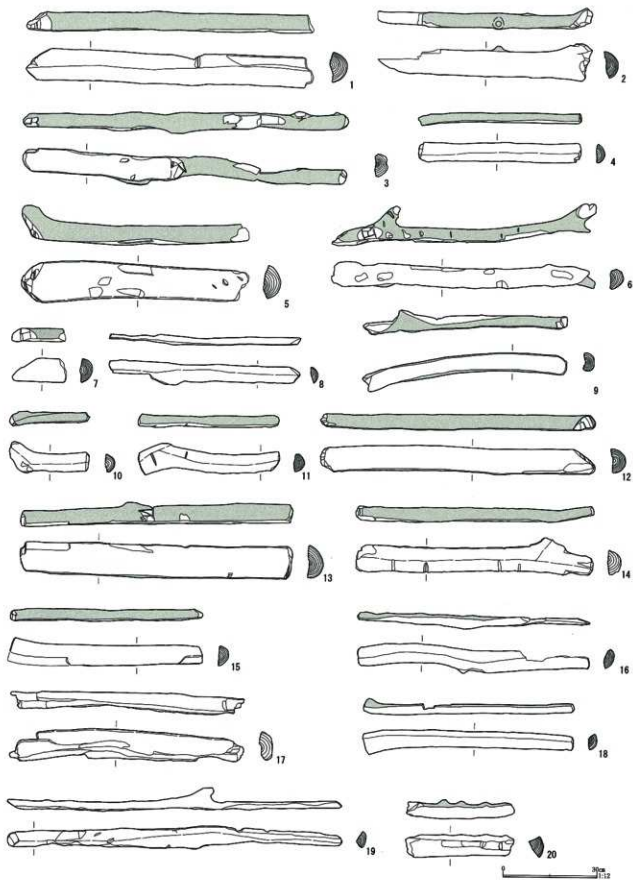
仕口は四箇所が多く、他に三箇所、六箇所がある。四箇所は第2段～第8段の七本、三箇所は第9・10

段の二本、六箇所は1段の一本である。仕口は、いずれも「コ」の字形である。

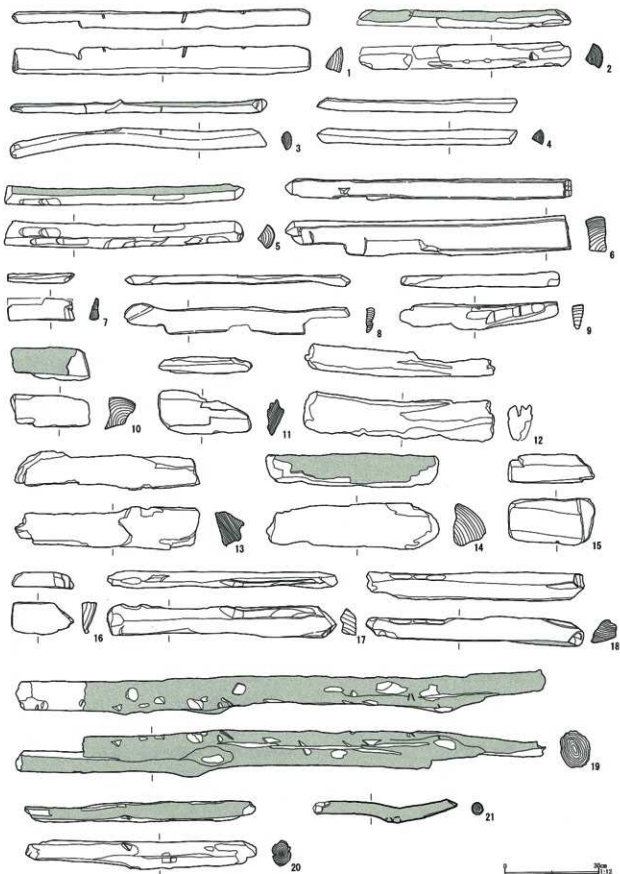
北側井戸枠を三グループに分ける。第1～5段は、多数の加工痕が残る。仕口も丁寧に作る。第6～8段の枠材は、長さや内面の加工が似る。第9～12段の枠材は、加工痕が少なく粗い作りである。



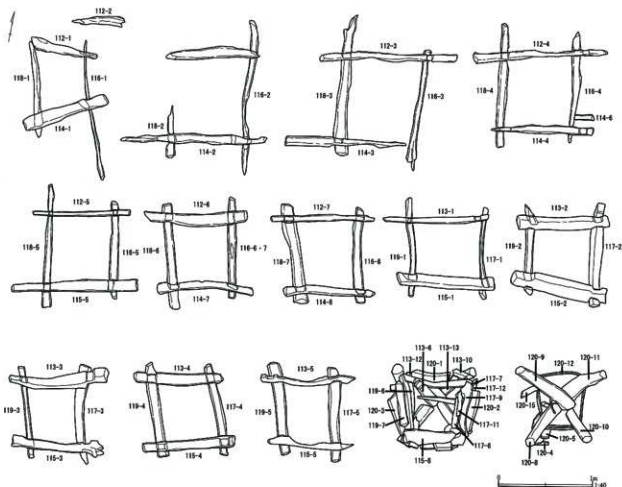
第108図 第42号井戸跡の井戸枠最下段



第109図 第42号井戸跡の井戸枠補強材等(1)



第110図 第42号井戸跡の井戸枠補強材等(2)



第111図 第85号井戸跡井戸枠組み上げ図

第113図7～9は、第1段と第2段の段間に詰められた材である。

7・9には、木を伐採した痕跡が端部に残るが、それ以外の加工痕は残らない。8には、加工痕がない。7・9は丸太材である。8は割材である。

第114図1～8、第115図1～5は、南側の枠材である。

全長は250～1074mm、幅は96～306mm、厚さは38～82mm、内法は516～686mmである。

第114図1は、第12段の枠材で柱目材である。割り剥がしたままで加工痕は残らない。

2は、第11段の枠材で柱目材である。材は、割り剥がしたままで加工痕は残らない。

3は、第10段の枠材で板目材である。材は、割り剥がしたままで加工痕は残らない。

4は、第9段の枠材で板目材である。樹皮面は、70mm幅で大きく削る。

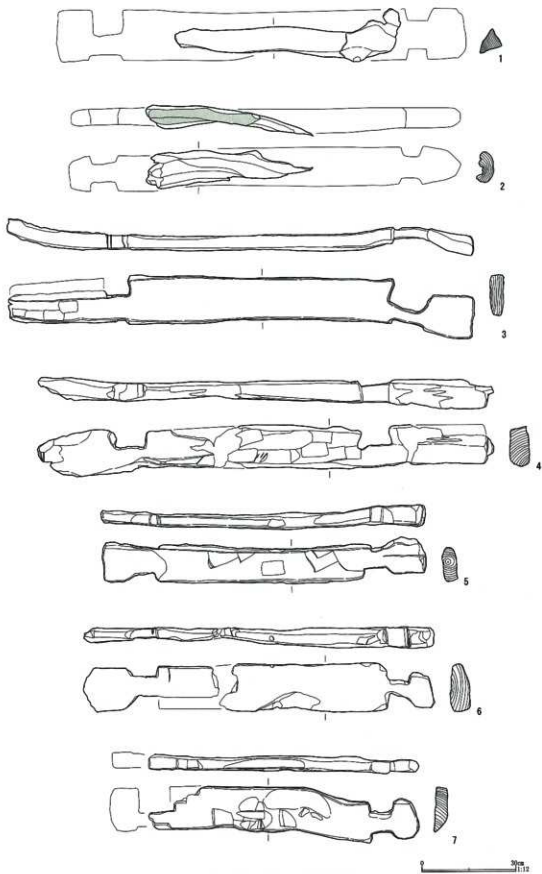
5・6は、第8段の枠材で柱目材である。内外面には、加工痕がやや残る。

7は、第7段の枠材で板目材である。上面全体には、幅約14mmの細かい加工痕が残る。内外面には、一部に加工痕が残る。

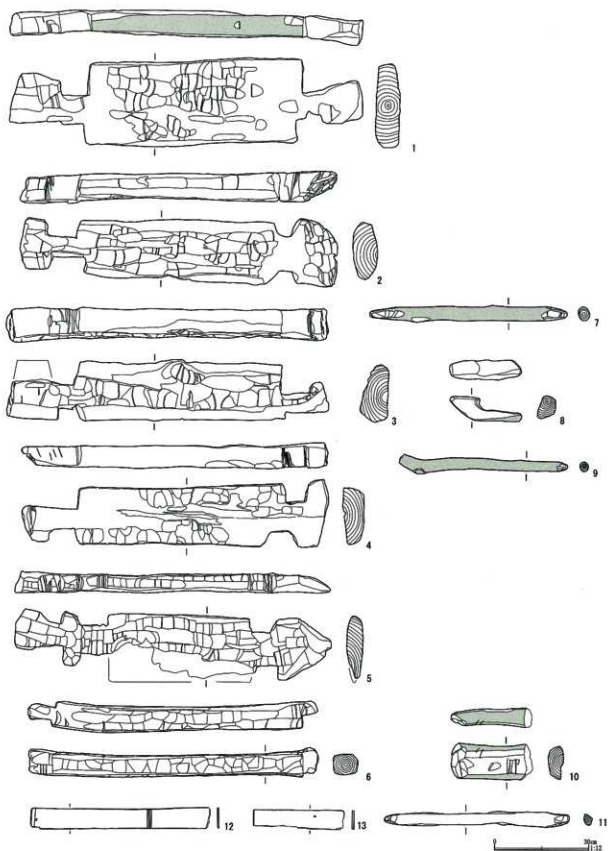
8は、第6段の枠材で板目材である。樹皮の面を幅10mmに削った痕跡が全体に残る。枠材を受けるには仕口部が非常に細く、幅20～30mmである。

第115図1は、第5段の枠材で板目材である。樹皮の側を幅48mm、長さ660mmと大きく削った加工痕が残る。

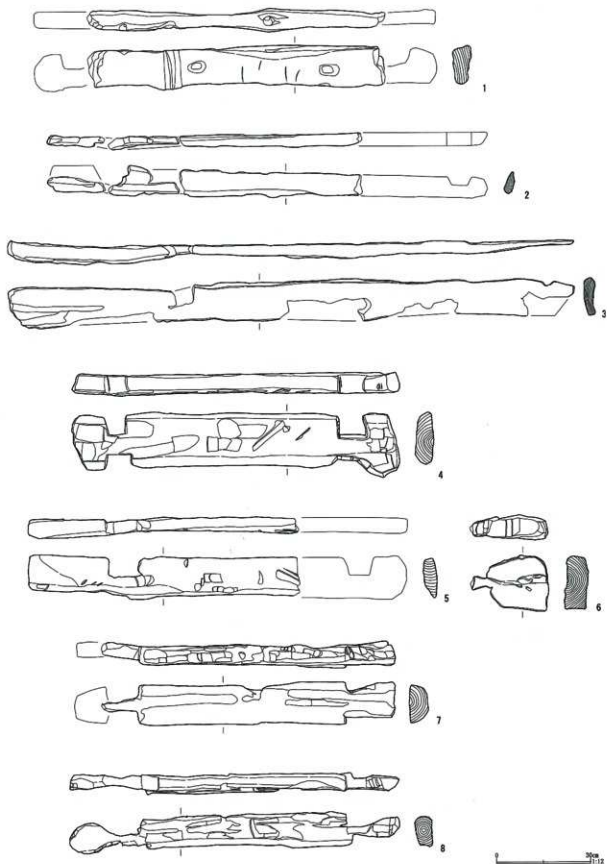
2は、第4段の枠材で板目材である。内外面の全体には、幅56mm、長さ40mm程の加工痕が残り、板状



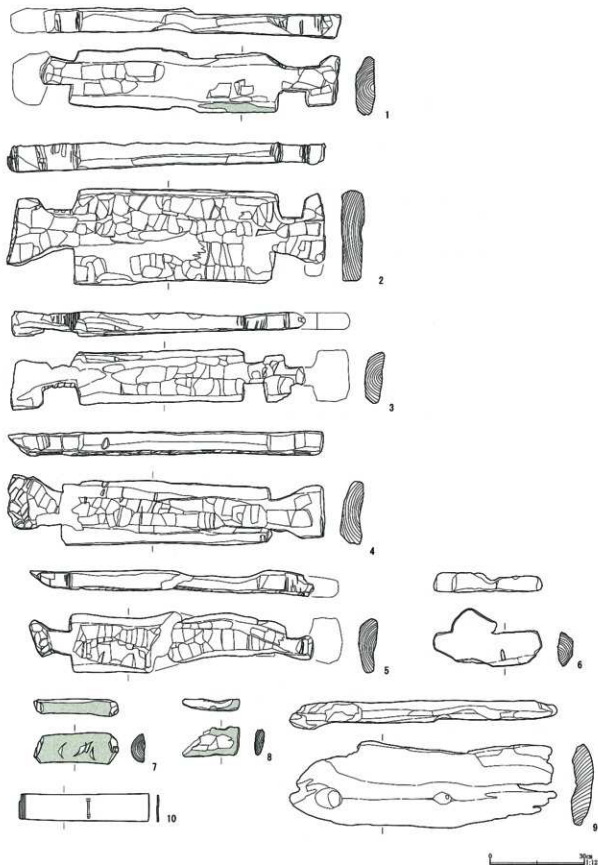
第112図 第85号井戸跡の北面井戸杵(1)



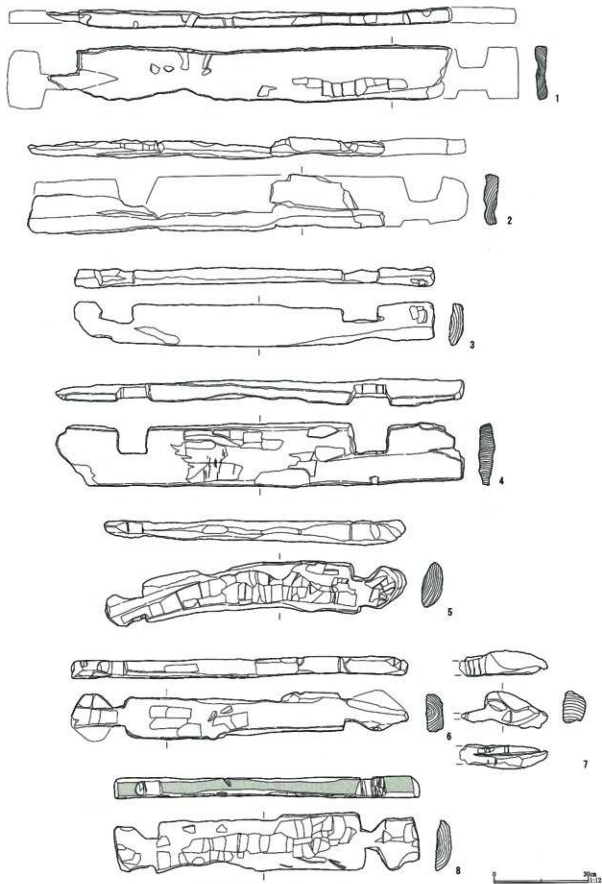
第113図 第85号井戸跡の北面井戸杵(2)



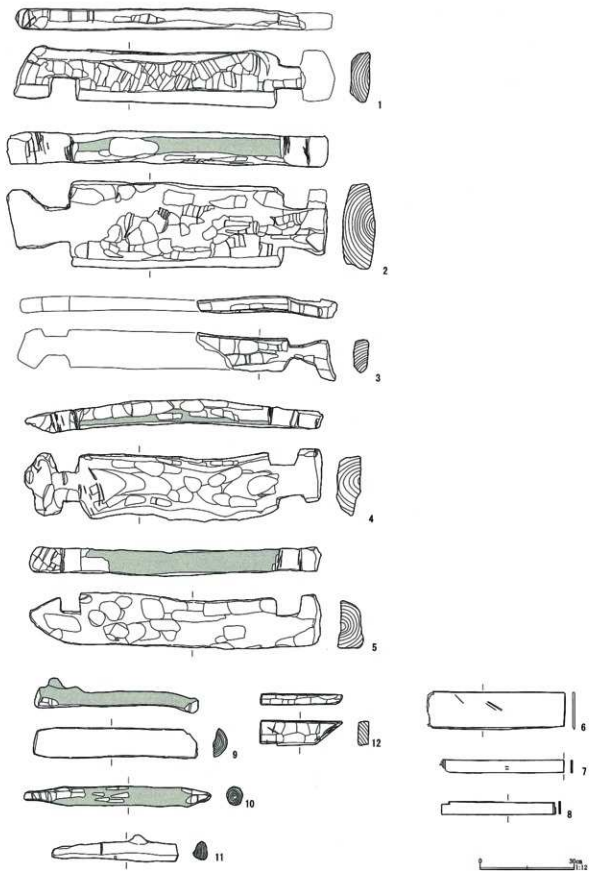
第114図 第85号井戸跡の南面井戸杵（1）



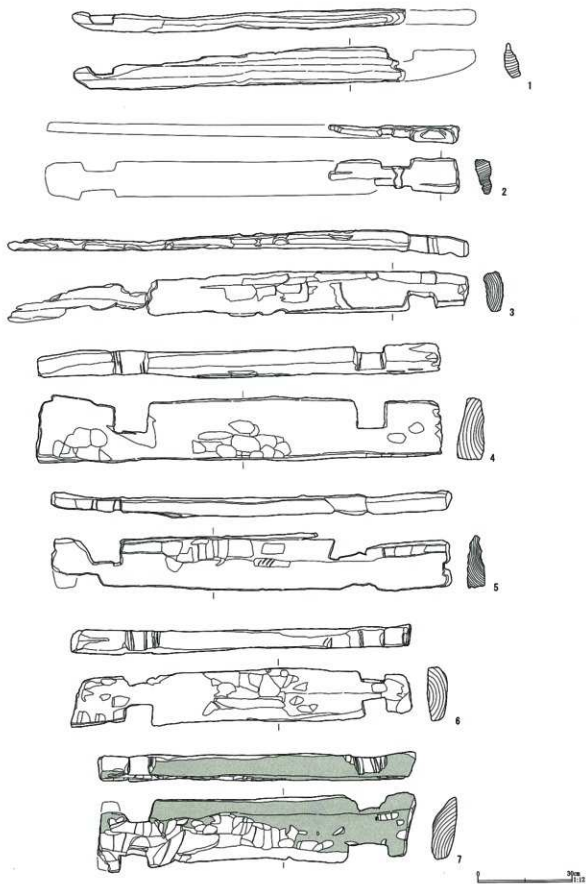
第115図 第85号井戸跡の南面井戸枠 (2)



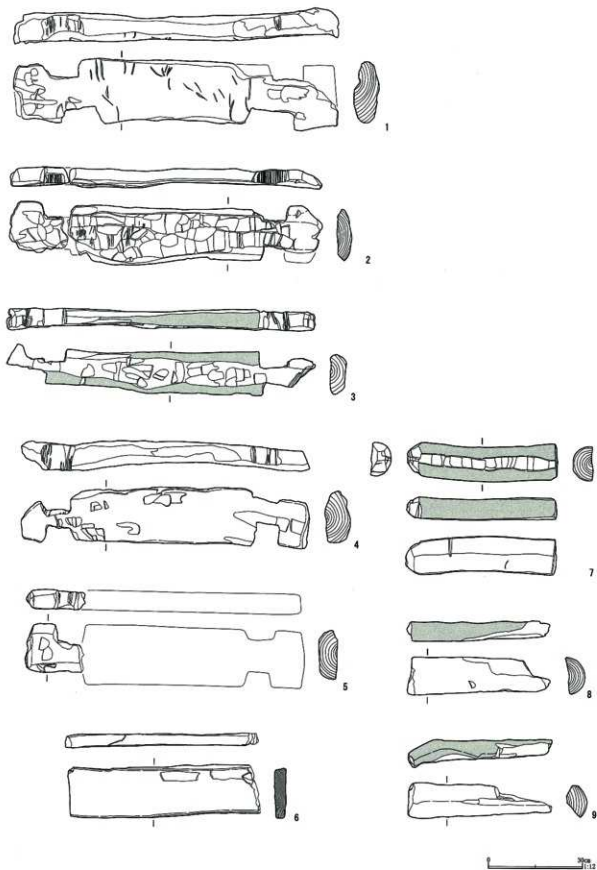
第116図 第85号井戸跡の東面戸枠（1）



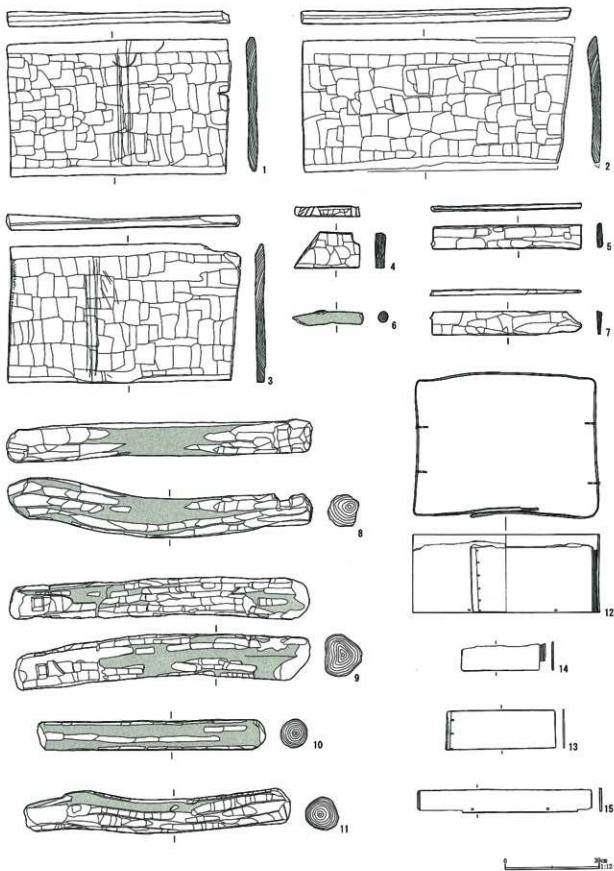
第117図 第85号井戸跡の東面井戸杵 (2)



第118図 第85号井戸跡の西面井戸杵 (1)



第119図 第85号井戸跡の西面井戸枠 (2)



第120図 第85号井戸跡の井戸枠最下段

に加工されている。

3は、第3段の枠材で板目材である。上下面が幅504mm、長さ84mmで削られ、外面の全体には、樹皮を削った加工痕が残る。仕口は、六箇所作られ、枠として使用したのは、内側の四箇所である。仕口の加工は、非常に細かい。

4は、第2段の枠材で板目材である。外面の全体には、幅50～70mm、長さ30mm程で樹皮の側を削った加工痕が残る。

5は、第1段の枠材で板目材である。樹皮の面には、幅45mmの削った加工痕が残る。

仕口は、二箇所・四箇所・六箇所がある。二箇所は第8段、四箇所は第1・2・4～7・9段の七本、六箇所は第3段の枠材である。

南側井戸枠は、北側と同様、三グループに分けることができる。第1～4段では、内外面の全面を加工し、仕口も丁寧にする。第5～9段では、それより少し粗めの加工を施す。第10～12段では、ほとんど加工は施さない。

第116図1～8、第117図1～8は、東側の枠材である。

全長は932～1306mm、幅は120～268mm、厚さは40～100mm、内法は288～664mmである。

第116図1は、第12段の枠材で板目材である。内外面が、僅かに削られている。表面は粗い。

2は、第11段の枠材で柱目材である。加工痕は残らない。丸太材を割り剥がしたままの材である。

3は、第10段の枠材で板目材である。一部に加工痕が残るが、ほとんど加工は施されない。

4は、第9段の枠材で柱目材である。内面を、幅40mm、長さ90mmほどに大きく削り板状にする。

5は、第8段の枠材で板目材である。内外面の全面を幅50mm、長さ60mmほどに削る。細かい細工だが、やや粗雑である。

6・7は、第7段の枠材で板目材である。内外面には、僅かな加工痕が残る。

8は、第6段の枠材で板目材である。内面全面に

は、幅61mm、長さ60mmの加工痕が残る。

第117図1は、第5段の枠材で板目材である。樹皮面に、幅50mmの削痕が残る。加工痕は細かく丁寧である。仕口が、三箇所と特異である。

2は、第4段の枠材で板目材である。幅60mm、長さ50mmの削った加工痕が残る。細かく削り、板状とする。

3は、第3段の枠材で柱目材である。樹皮側の全面を削る。他の枠材に比べると、幅が非常に狭い。

4は、第2段の枠材で板目材である。幅50mm、長さ60mmで樹皮側の全面を削った加工痕が残る。上面の全面が、加工される。仕口は、「コ」の字形に丁寧にする。

5は、第1段の枠材で板目材である。内外面には、幅70mm、長さ70mmに削った加工痕が残る。端部は、三角形の平面形に作られる。

仕口は、第1・9～11段の四本の枠材には二箇所作られ、第2～8・12段の八本の枠材は、四箇所作られている。

東側井戸枠も三グループに分けられる。第1段～第5段では、材を丁寧に削り板状にする。仕口の作りも丁寧である。第6段～第9段では、表面を削るが、やや粗い。第10段～第12段は、削ったままの材である。

第118図1～7、第119図1～5は、西側の枠材である。

全長は418～1474mm、幅は110～214mm、厚さは52～94mm、内法は440～840mmである。

第118図1は、第12段の枠材で割材である。割り剥がした材に仕口を作った簡単な作りである。

2は、第11段の枠材で柱目材である。加工痕は残らず、1と同様、割材に仕口部分を作っただけである。

3は、第10段の枠材で板目材である。内面には、幅50mm、長さ80mmに削った加工痕が残る。丁寧な作りではない。

4は、第9段の枠材で板目材である。内外面には

幅50mm、長さ90mmに削った加工痕が残る。綺麗な板材に仕上げられる。仕口は、左右同じ「コ」の字形に作られる。

5は、第8段の枠材で板目材である。内面全体に加工が施されているが、仕口には、加工痕がなく粗い作りである。

6は、第7段の枠材で板目材である。外面には、幅60mm、長さ100mm程に削った加工痕が残る。仕口を「コ」の字形に作る。

7は、第6段の枠材で板目材である。幅70mm、長さ30mmに樹皮側を削った加工痕がある。細かい加工が施される。仕口は、大きさ・形ともばらつきがあり、丁寧な作りではない。

第119図1は、第5段の枠材で板目材である。内外面には、引っかいたような傷が多く残る。しかし目立った加工痕はない。仕口の作り方も粗い。

2は、第4段の枠材で板目材である。内外面のほぼ全面に幅40mm、長さ20~30mmの加工痕がある。仕口には2~3mmの間隔で加工痕が残る。また直線的な傷が多くある。削りが細かく丁寧な作りである。

3は、第3段の枠材で板目材である。他の枠材に比べると幅が狭く細い。樹皮の面は、幅36mm、長さ50mmに削られ、板状に作られる。仕口は、「コ」の字形に作られる。左上の仕口のみが、広い幅であることから、拡張したと考えた。

4は、第2段の枠材で板目材である。内外面には、丁寧な加工痕はない。仕口には、多くの加工痕が残る。「コ」の字形にしっかり作られている。

5は、第1段の枠材で板目材である。大部分が欠損するが、表面は、板状に丁寧な作りである。仕口は、「コ」の字形に作る。

仕口は、第1・9・10・12段の四本には二箇所作り、第2~8・11段の八本には四箇所作る。

西側の井戸枠は、加工具合により三グループに分けた。

第1~6段は、丁寧に削り板状に作る。第7段~第9段は、一部に加工を施すのみである。

第10~12段は、割材に加工を施さない粗い作りである。

第113図6・10~13、第115図8~10、第117図6~12、第119図6~9、第120図4~7・12~15は、水溜部の部材である。半載・みかん割りをしただけの材と、転用材からなる。

第113図の6は、建築材と考えたい。

第113図12・13、第115図10、第117図6・7・8、第120図13~15は、曲物の側板を転用した。

第113図12は、樹皮の紐が一箇所、3~4mmの間隔で縦に平行線のケビキが引かれる。13には、樹皮紐が一箇所残る。

第115図10は、樹皮の紐が一例、4mmの間隔で縦に平行線のケビキが引かれる。

第117図6は、底板と接合するための段がある。

7は、4mmの間隔で縦に平行線のケビキがみられる。

8は、底板を固定する樹皮の紐が一箇所、5mmの間隔で縦に平行線のケビキがみられる。

第120図13は、樹皮紐がある。

14は、4mmの間隔で縦に平行線のケビキがある。

15は、底板を固定する樹皮紐が二箇所、3mmの間隔で縦平行線のケビキがみられる。

第120図1~3は、水溜部に縦に差し込まれた板材である。本来は四枚であった。内外面共に丁寧な整形がみられる。これらは、切断部から一枚の板に復元できる。机や案など、何らかの製品を作るための板材だったのであろう。

第120図8~11は、水溜部に放射状に差し込んだ材である。

8は、長さ・幅・深さ34mmの納穴が、二箇所に穿たれている。樹皮の大部分は、幅30mm、長さ60mmに削られる。

9は、上辺縦41mm×横33mm、底辺縦30mm×横24mm、深さ34mmの納穴、上辺縦44mm×横38mm、底辺縦28mm×横28mmの納穴が穿たれる。8・9とも桁材の転用である。全面が幅20mm、長さ60mmで削られる。

10・11は、杓穴はないが、全面を削ることから前者と同一の材であろう。8・9同様、柱の一部である。

第120図12は、水溜部の最下部に設置した長方形曲物の側板である。対応する底板は出土していない。縦432mm、横612mm、高さ142mmを測る。内面の四隅には、2～4mmの間隔で縦に平行線のケビキが引かれる。

底板をとめる木釘穴が四箇所あり、一面に二箇所、二面が対になるように穿たれる。さらに、底板を留める樹皮の紐が残存する。側板は一箇所留められ、「一列内六段綴じ」で作られている。

第117図11、第119図9の木取りは、割材である。

第115図6・8、第120図1～5・7の木取りは、板目材である。

第115図9と第117図12、第119図6の木取りは、柾目材である。

第113図6・11、第117図10、第120図6・8～11の木取りは芯持ち材である。

第113図10、第115図117、第7図119、第9図7・8の木取りは半載材である。

枅材は段の違いによる特徴がみられる。枅材の全長は、第1段～第9段では、およそ1000mm前後である。しかし、第1段の一部と第10段～第12段では、極端に短い約500mmと、極端に長い1500mmや1800mmがある。

また第9段の一部と第10段～第12段の枅材は、丸木を削り剥がしたままで、表面には加工が施されない。仕口も丁寧な作りではない。

このように、第1段から第9段と第10段から第12段には大きな差異がみられ、作り変えを行った可能性がある。

また、第1段から第9段の中では、表面を細かく削り仕口を丁寧に作る材が第1段から第5段、丁寧に作られていない材が第6段から第9段に使用される。ただしこの差異は、作り変えによるものではないと考えられる。

第12号井戸跡井戸枅

水溜部の構造材として底板のない曲物と、曲物を囲う板材が出土した。

第121図8～10は、曲物を囲った板材である。8～10は接合点はないが、同一の扉の転用材である。一端に回転軸を持ち(8)、もう一端の回転軸近くには、柱に固定する穴(10)が穿たれている。長さ24mm、幅18mmの楕円形の穴である。

扉の幅は、358mmである。軸は、縦24mm、横30mmの方形の断面を持ち、長さは54mmである。いずれも板目材で、表面に整形の加工痕は残らない。

第13号井戸跡井戸枅

第121図2は、枅材の一部である。幅88mmの仕口を作る。側面の一部には、刃物の加工痕が残る。それ以外に加工痕はない。材を割ったままの粗い作りである。柾目材である。

第18号井戸跡井戸枅

第121図1は、井戸内に落下した枅材である。みかん割りの材で表面に刃物の跡が残る。とくに加工痕はない。

第25号井戸跡井戸枅

第121図4の端部には、切り落としの跡がある。整形の跡はない。芯持ち材である。

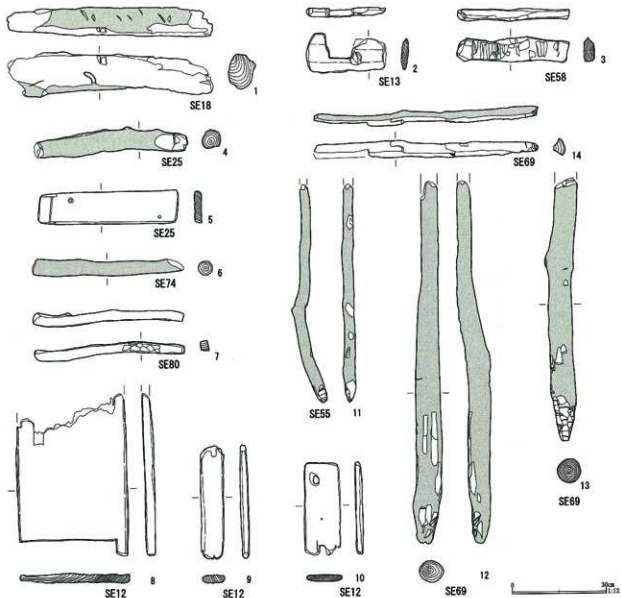
5は、径12mmの穴が穿たれる。高さ5mmの段を持つ。柾目材である。

第55号井戸跡井戸枅

第121図11は、径38mmの丸太材である。先端は、幅21mmで加工されて、二つの面を作る。

第58号井戸跡井戸枅

第121図3は、内外面に幅10mmの細かい加工を施す。半載後、樹皮側を載ち落す。板目材である。



第121図 杵材・井戸杵・補強材

第69号井戸跡井戸杵

竹と杭を井戸側とする井戸である。

第121図12・13は、竹を支える杭、14は、隙間に詰めた割材である。12は、先端を約20mm幅に削って尖らせる。13は先端を一面のみ、幅21mmに削る。14は、割り剥がしたままの材である。

第74号井戸跡井戸杵

第121図6は、径44mmの芯持ち材である。先端部には、加工痕が残る。

第80号井戸跡井戸杵

第121図7は、断面が方形の材である。一面だけに幅15mmの加工痕が残る。

第31表 井戸枠(1)

棟目 番号	図の 番号	遺構 番号	位置	器種	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				備考
									左上	右上	左下	右下	
第93図	1	SE21	4段	枠材	936	170	54	546	(104)	104	(100)	132	
第93図	2	SE21	3段	枠材	(804)	118	48	606	—	(120)	—	—	
第93図	3	SE21	2段	枠材	912	132	56	610	88	120	100	108	
第93図	4	SE21	1段	枠材	966	130	68	676	94	(80)	—	—	
第93図	5	SE21	4段	枠材	930	144	42	510	122	126	—	—	
第93図	6	SE21	1段	枠材	(648)	100	58	(564)	—	(86)	—	—	
第94図	1	SE21	4段	枠材	(166)	108	44	—	—	—	(90)	—	
第94図	2	SE21	3段	枠材	936	132	60	588	108	84	—	—	
第94図	3	SE21	3段	枠材	(684)	82	76	(366)	98	—	86	—	
第94図	4	SE21	1段	枠材	936	144	70	534	102	120	100	146	
第94図	5	SE21	2段	枠材	(696)	102	48	(596)	(120)	—	—	—	
第94図	6	SE21	1段	枠材	(666)	112	60	(552)	(90)	—	—	—	
第96図	1	SE42	12段	枠材	882	78	54	—	—	—	—	—	
第96図	2	SE42	11段	枠材	(900)	(174)	120	606	(66)	(90)	—	—	
第96図	3	SE42	10段	枠材	(1266)	252	192	786	132	(78)	—	—	
第96図	4	SE42	9段	枠材	1488	240	156	762	246	156	204	210	
第96図	5	SE42	8段	枠材	(1392)	198	78	(804)	150	(126)	132	(108)	
第97図	1	SE42	7段	枠材	1698	234	156	750	216	198	216	246	
第97図	2	SE42	6段	枠材	1602	168	258	834	174	—	240	210	
第97図	3	SE42	5段	枠材	1596	144	132	948	120	132	—	—	
第97図	4	SE42	4段	枠材	1734	264	138	942	162	180	180	162	
第98図	1	SE42	3段	枠材	(942)	198	102	(522)	—	120	—	186	
第98図	2	SE42	2段	枠材	(1986)	198	69	(1140)	144	—	—	—	
第98図	3	SE42	1段	枠材	1632	204	102	876	186	204	—	126	
第98図	4	SE42	—	枠材	930	150	102	—	—	—	—	—	
第99図	1	SE42	12段	枠材	(648)	192	72	(552)	(78)	—	(60)	—	
第99図	2	SE42	11段	枠材	(1728)	210	120	(792)	186	—	258	—	
第99図	3	SE42	10段	枠材	(1530)	288	162	762	—	150	—	162	
第99図	4	SE42	9段	枠材	—	240	120	(720)	(66)	(132)	—	(114)	
第100図	2	SE42	7段	枠材	(1044)	144	192	(846)	186	288	—	—	
第100図	3	SE42	6段	枠材	1686	210	168	786	192	198	222	216	
第100図	4	SE42	5段	枠材	1968	138	246	1002	174	—	—	—	
第100図	1	SE42	8段	枠材	1478	192	120	714	198	300	174	—	
第101図	2	SE42	3段	枠材	(1446)	222	120	960	(168)	168	—	—	
第101図	3	SE42	2段	枠材	1608	180	78	948	174	168	138	102	建築材
第101図	4	SE42	1段	枠材	(1410)	270	120	756	(168)	186	—	120	
第101図	1	SE42	4段	枠材	(1812)	198	120	822	—	342	—	—	
第101図	5	SE42	—	枠材	(996)	114	108	—	—	—	—	—	
第102図	1	SE42	12段	枠材	(690)	192	(114)	—	—	—	—	—	
第102図	2	SE42	11段	枠材	(1056)	210	138	780	(210)	(72)	—	(108)	
第102図	3	SE42	10段	枠材	1548	240	138	714	210	264	168	210	
第102図	4	SE42	9段	枠材	(1056)	222	108	828	(108)	(108)	(168)	(114)	
第103図	1	SE42	8段	枠材	(1584)	162	102	(792)	(90)	210	(96)	180	
第103図	2	SE42	7段	枠材	(1392)	186	120	732	216	(198)	—	(192)	
第103図	3	SE42	6段	枠材	1824	162	168	900	(330)	276	—	—	
第103図	4	SE42	5段	枠材	(1494)	252	132	954	36	(138)	180	(150)	
第104図	1	SE42	4段	枠材	(1338)	210	120	876	228	(48)	228	(36)	

第32表 井戸枠(2)

棟号	園の 番号	遺構 番号	位置	器種	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				備考
									左上	右上	左下	右下	
第104回	2	SE42	3段	枠材	1620	240	108	990	156	150	150	144	
第104回	3	SE42	2段	枠材	1614	138	84	(948)	—	102	—	108	
第104回	4	SE42	1段	枠材	(1338)	258	132	906	132	(132)	—	—	
第105回	1	SE42	12段	枠材	(948)	258	108	756	(48)	(144)	(66)	—	
第105回	2	SE42	11段	枠材	(1152)	186	150	(744)	192	(54)	—	—	
第105回	3	SE42	10段	枠材	(1578)	282	138	(828)	—	(144)	(204)	(144)	
第105回	4	SE42	9段	枠材	(1722)	198	126	834	156	(204)	66	(240)	
第106回	1	SE42	8段	枠材	1638	168	132	696	(102)	312	120	144	
第106回	2	SE42	7段	枠材	(1386)	156	108	762	(216)	168	(198)	168	
第106回	3	SE42	6段	枠材	(1630)	150	156	(834)	(180)	258	222	—	
第106回	4	SE42	5段	枠材	(1470)	294	222	978	(162)	246	(132)	216	
第107回	1	SE42	4段	枠材	(1458)	204	168	834	(162)	(144)	—	—	
第107回	2	SE42	3段	枠材	(1746)	228	162	(672)	(198)	240	(156)	—	
第107回	3	SE42	2段	枠材	(1428)	168	90	(1038)	120	(72)	138	—	
第107回	4	SE42	1段	枠材	1644	204	108	(984)	126	174	—	—	
第108回	1	SE42	水溜部	部材	804	(312)	30	—	—	—	—	—	凸部左長さ(140)幅42、右長さ(140)幅(36)
第108回	2	SE42	水溜部	部材	846	480	30	—	—	—	—	—	凹部左長さ195幅42-60、右長さ180幅48
第108回	3	SE42	水溜部	部材	798	462	48	—	—	—	—	—	凸部左長さ174幅48-54、右長さ180幅42
第108回	4	SE42	水溜部	部材	798	468	48	—	—	—	—	—	凹部左長さ174幅42、右長さ174幅42
第108回	5	SE42	水溜部	部材	(768)	(168)	30	—	—	—	—	—	凸部右長さ(12)幅36
第108回	6	SE42	水溜部	部材	810	84	48	—	—	—	—	—	
第108回	7	SE42	水溜部	部材	726	102	84	—	—	—	—	—	
第108回	8	SE42	水溜部	部材	720	126	72	—	—	—	—	—	
第108回	9	SE42	水溜部	部材	180	102	90	—	—	—	—	—	
第108回	10	SE42	水溜部	部材	336	108	54	—	—	—	—	—	
第108回	11	SE42	水溜部	部材	978	84	60	—	—	—	—	—	
第108回	12	SE42	水溜部	部材	540	66	36	—	—	—	—	—	
第109回	1	SE42	—	すきま材	960	102	30	—	—	—	—	—	
第109回	2	SE42	—	すきま材	708	120	84	—	—	—	—	—	
第109回	3	SE42	—	すきま材	1032	90	42	—	—	—	—	—	
第109回	4	SE42	—	すきま材	522	60	27	—	—	—	—	—	
第109回	5	SE42	—	すきま材	756	132	54	—	—	—	—	—	
第109回	6	SE42	—	すきま材	846	102	78	—	—	—	—	—	
第109回	7	SE42	—	すきま材	168	78	39	—	—	—	—	—	
第109回	8	SE42	—	すきま材	576	72	24	—	—	—	—	—	
第109回	9	SE42	—	すきま材	666	66	30	—	—	—	—	—	
第109回	10	SE42	—	すきま材	252	90	30	—	—	—	—	—	
第109回	11	SE42	—	すきま材	462	81	36	—	—	—	—	—	
第109回	12	SE42	—	すきま材	876	72	37	—	—	—	—	—	
第109回	13	SE42	—	すきま材	900	102	48	—	—	—	—	—	
第109回	14	SE42	—	すきま材	756	108	42	—	—	—	—	—	
第109回	15	SE42	—	すきま材	630	72	30	—	—	—	—	—	
第109回	16	SE42	—	すきま材	744	78	30	—	—	—	—	—	
第109回	17	SE42	—	すきま材	750	96	42	—	—	—	—	—	
第109回	18	SE42	—	すきま材	702	72	24	—	—	—	—	—	
第109回	19	SE42	—	すきま材	1068	72	24	—	—	—	—	—	
第109回	20	SE42	—	すきま材	348	72	42	—	—	—	—	—	

第33表 井戸枠(3)

押込 番号	図の 番号	選構 番号	位置	器種	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				備考
									左上	右上	左下	右下	
第110図	1	SE42	—	すきま材	996	90	51	—	—	—	—	—	
第110図	2	SE42	—	すきま材	678	78	54	—	—	—	—	—	
第110図	3	SE42	—	すきま材	852	60	30	—	—	—	—	—	
第110図	4	SE42	—	すきま材	648	48	30	—	—	—	—	—	
第110図	5	SE42	—	すきま材	771	78	51	—	—	—	—	—	
第110図	6	SE42	—	すきま材	918	114	66	—	—	—	—	—	
第110図	7	SE42	—	すきま材	216	69	30	—	—	—	—	—	
第110図	8	SE42	—	すきま材	732	72	24	—	—	—	—	—	
第110図	9	SE42	—	すきま材	510	78	36	—	—	—	—	—	
第110図	10	SE42	—	すきま材	264	102	102	—	—	—	—	—	
第110図	11	SE42	—	すきま材	300	138	54	—	—	—	—	—	
第110図	12	SE42	—	すきま材	612	129	78	—	—	—	—	—	
第110図	13	SE42	—	すきま材	612	135	96	—	—	—	—	—	
第110図	14	SE42	—	すきま材	558	144	102	—	—	—	—	—	
第110図	15	SE42	—	すきま材	276	147	—	—	—	—	—	—	
第110図	16	SE42	—	すきま材	198	108	48	—	—	—	—	—	
第110図	17	SE42	—	すきま材	738	102	—	—	—	—	—	—	
第110図	18	SE42	—	すきま材	702	90	84	—	—	—	—	—	
第110図	19	SE42	—	すきま材	1704	138	96	—	—	—	—	—	
第110図	20	SE42	—	すきま材	768	84	66	—	—	—	—	—	
第110図	21	SE42	—	すきま材	468	48	36	—	—	—	—	—	
第112図	1	SE85	12段	枠材	(712)	(136)	—	—	—	—	—	—	
第112図	2	SE85	11段	枠材	(528)	(102)	70	—	—	—	—	—	
第112図	3	SE85	10段	枠材	1474	154	54	842	72	126	—	110	
第112図	4	SE85	9段	枠材	1442	140	86	682	118	86	—	—	
第112図	5	SE85	8段	枠材	1024	116	58	664	92	74	120	104	
第112図	6	SE85	7段	枠材	(1122)	154	62	(738)	102	84	—	90	
第112図	7	SE85	6段	枠材	(864)	142	46	(534)	(88)	80	—	82	
第113図	1	SE85	5段	枠材	1114	264	78	662	90	126	84	94	
第113図	2	SE85	4段	枠材	(1000)	192	88	810	120	—	102	—	
第113図	3	SE85	3段	枠材	1022	186	104	640	96	90	84	80	
第113図	4	SE85	2段	枠材	968	194	72	636	(164)	86	106	120	
第113図	5	SE85	1段	枠材	1006	198	60	444	枠内段	86	枠内段	76	
第113図	6	SE85	水溜部	部材	914	64	74	780	94	—	76	56	
第113図	7	SE85	—	すきま材	624	—	—	—	—	—	—	—	径42
第113図	8	SE85	—	すきま材	230	72	60	—	—	—	—	—	
第113図	9	SE85	—	すきま材	542	—	—	—	—	—	—	—	径30
第113図	10	SE85	水溜部	部材	258	100	58	—	—	—	—	—	
第113図	11	SE85	水溜部	部材	585	—	—	—	—	—	—	—	径46
第113図	12	SE85	水溜部	部材	(570)	(57)	8	—	—	—	—	—	
第113図	13	SE85	水溜部	部材	(299)	(57)	11	—	—	—	—	—	
第114図	1	SE85	12段	枠材	(954)	130	74	(964)	—	—	—	—	
第114図	2	SE85	11段	枠材	(1062)	(96)	38	—	—	—	—	—	
第114図	3	SE85	10段	枠材	(1820)	130	56	—	—	—	—	—	
第114図	4	SE85	9段	枠材	1050	174	62	676	72	82	90	112	
第114図	5	SE85	8段	枠材	(858)	116	42	(504)	96	—	—	—	
第114図	6	SE85	8段	枠材	(250)	168	74	—	—	(48)	—	(94)	

第34表 井戸枠(4)

棟図 番号	図の 番号	造構 番号	位置	器種	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				備考
									左上	右上	左下	右下	
第114図	7	SE85	7段	枠材	(942)	132	72	662	(120)	94	(122)	94	
第114図	8	SE85	6段	枠材	1074	110	56	650	124	106	160	(114)	
第115図	1	SE85	5段	枠材	(974)	194	76	618	(90)	204	(80)	102	
第115図	2	SE85	4段	枠材	1024	306	82	634	134	132	130	126	
第115図	3	SE85	3段	枠材	(942)	166	78	516	106	(80)	118	78	
第115図	4	SE85	2段	枠材	1016	196	72	654	106	120	76	114	
第115図	5	SE85	1段	枠材	(910)	186	72	(686)	118	(68)	104	(76)	
第115図	6	SE85	水溜部	部材	346	170	62	-	-	-	-	-	
第115図	7	SE85	水溜部	部材	274	96	52	-	-	-	-	-	
第115図	8	SE85	水溜部	部材	182	90	34	-	-	-	-	-	
第115図	9	SE85	水溜部	部材	854	266	68	-	-	-	-	-	
第115図	10	SE85	水溜部	部材	420	(80)	8	-	-	-	-	-	
第116図	1	SE85	12段	枠材	(1296)	174	56	(132)	(94)	-	(140)	-	
第116図	2	SE85	11段	枠材	(1140)	164	58	-	-	-	-	-	
第116図	3	SE85	10段	枠材	1154	132	52	678	126	116	-	-	
第116図	4	SE85	9段	枠材	1306	206	84	640	100	134	-	-	
第116図	5	SE85	8段	枠材	966	160	78	684	86	100	66	84	
第116図	6	SE85	7段	枠材	1078	132	58	650	100	(104)	(140)	82	
第116図	7	SE85	7段	枠材	(278)	(100)	96	-	-	(86)	-	-	
第116図	8	SE85	6段	枠材	1014	180	62	664	82	100	90	90	
第117図	1	SE85	5段	枠材	(921)	176	64	636	-	(92)	90	(100)	
第117図	2	SE85	4段	枠材	1028	268	100	660	152	104	104	90	
第117図	3	SE85	3段	枠材	(450)	120	40	(288)	-	110	-	120	
第117図	4	SE85	2段	枠材	954	204	74	600	100	102	100	90	
第117図	5	SE85	1段	枠材	932	164	78	612	66	84	-	-	
第117図	6	SE85	水溜部	部材	(471)	(123)	14	-	-	-	-	-	
第117図	7	SE85	水溜部	部材	(406)	(40)	8	-	-	-	-	-	
第117図	8	SE85	水溜部	部材	(380)	(40)	8	-	-	-	-	-	
第117図	9	SE85	水溜部	部材	597	90	46	-	-	-	-	-	
第117図	10	SE85	水溜部	部材	608	-	-	-	-	-	-	-	径60
第117図	11	SE85	水溜部	部材	412	-	-	-	-	-	-	-	径58
第117図	12	SE85	水溜部	部材	264	72	24	-	-	-	-	-	
第118図	1	SE85	12段	枠材	(1062)	112	58	(936)	76	(66)	-	-	
第118図	2	SE85	11段	枠材	(418)	110	56	(156)	106	96	-	(100)	
第118図	3	SE85	10段	枠材	(1474)	132	60	(840)	-	-	-	86	
第118図	4	SE85	9段	枠材	1300	214	94	652	-	100	-	-	
第118図	5	SE85	8段	枠材	1284	180	62	688	162	104	(166)	128	
第118図	6	SE85	7段	枠材	1090	168	76	680	110	86	86	78	
第118図	7	SE85	6段	枠材	1018	214	80	640	102	116	94	134	
第119図	1	SE85	5段	枠材	1024	202	88	440	122	(94)	138	146	
第119図	2	SE85	4段	枠材	(1006)	176	56	(700)	(72)	116	(62)	68	
第119図	3	SE85	3段	枠材	976	132	52	606	138	90	(76)	94	
第119図	4	SE85	2段	枠材	910	196	84	594	92	96	116	92	
第119図	5	SE85	1段	枠材	(182)	150	60	-	(68)	-	-	-	
第119図	6	SE85	水溜部	部材	550	156	36	-	-	-	-	-	
第119図	7	SE85	水溜部	部材	474	-	68	-	-	-	-	-	径106
第119図	8	SE85	水溜部	部材	454	102	60	-	-	-	-	-	

第35表 井戸枠（5）

棟目 番号	図の 番号	遺構 番号	位置	器種	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				備考
									左上	右上	左下	右下	
第119図	9	SE85	水溜部	部材	476	102	70	-	-	-	-	-	
第120図	1	SE85	水溜部	部材	696	424	40	-	-	-	-	-	
第120図	2	SE85	水溜部	部材	838	396	10	-	-	-	-	-	
第120図	3	SE85	水溜部	部材	750	432	28	-	-	-	-	-	
第120図	4	SE85	水溜部	部材	204	102	32	-	-	-	-	-	
第120図	5	SE85	水溜部	部材	480	76	38	-	-	-	-	-	
第120図	6	SE85	水溜部	部材	226	-	-	-	-	-	-	-	径34
第120図	7	SE85	水溜部	部材	480	74	16	-	-	-	-	-	
第120図	8	SE85	水溜部	部材	972	-	-	-	-	-	-	-	径122柱
第120図	9	SE85	水溜部	部材	955	-	-	-	-	-	-	-	径132柱
第120図	10	SE85	水溜部	部材	728	-	-	-	-	-	-	-	径88柱
第120図	11	SE85	水溜部	部材	852	-	-	-	-	-	-	-	径108柱
第120図	12	SE85	水溜部	部材	604	750	10	-	-	-	-	-	
第120図	13	SE85	水溜部	部材	(304)	(126)	8	-	-	-	-	-	
第120図	14	SE85	水溜部	部材	(276)	(71)	8	-	-	-	-	-	
第120図	15	SE85	水溜部	部材	(553)	(72)	12	-	-	-	-	-	
第121図	1	SE18	-	枠材	660	130	78	-	-	-	-	-	
第121図	2	SE13	-	枠材	(256)	136	26	(104)	88	-	-	-	
第121図	3	SE58	-	枠材	360	76	36	-	-	-	-	-	
第121図	4	SE25	-	枠材	494	-	-	-	-	-	-	-	径60
第121図	5	SE25	-	枠材	225	51	11	-	-	-	-	-	
第121図	6	SE74	-	枠材	486	-	-	-	-	-	-	-	径44
第121図	7	SE80	-	枠材	482	34	30	-	-	-	-	-	
第121図	8	SE12	-	枠材	(514)	394	30	-	-	-	-	-	扉
第121図	9	SE12	-	枠材	(354)	(112)	24	-	-	-	-	-	扉
第121図	10	SE12	-	枠材	(358)	(72)	26	-	-	-	-	-	扉
第121図	11	SE55	-	枠材	695	-	-	-	-	-	-	-	径38
第121図	12	SE69	-	枠材	1148	-	-	-	-	-	-	-	径76
第121図	13	SE69	-	枠材	830	-	-	-	-	-	-	-	径74
第121図	14	SE69	-	枠材	716	54	37	-	-	-	-	-	

13. グリッド・表採

北島遺跡第19地点では、耕作土と古代の遺構確認面との間に古代から中世にかけて、遺物を大量に包含した層が形成された。ここから出土した土器片は、約2トン(2,165,908g)に及ぶことが分かった。本調査では、この堆積層をスコップで掘削し、グリッド(10×10m)及び小グリッド(5×5m)ごとに取り上げることとした。

また遺構内から出土した遺物も、明らかに遺構の帰属時期と異なる遺物については、グリッド扱いとすることとした。以下、作業手順を記す。

まず取り上げ番号を付けた遺物は、遺物の種別・器種・時期・産地・残存率を一覧表に記入し、実測個体の抽出を行った。

実測個体のうちで復元・接合作業を必要とする個体は、その作業を行った後に実測した。

実測の行えない個体は、遺物堆積層出土遺物として統計処理を行った。

またグリッドで取り上げた遺物は、グリッドごとに種別・器種・時期・産地等で分類し、分類ごとにラベルを付けたビニール袋に入れた。そしてビニール袋ごと重量(g)を測り、一覧表に記入した。

なお混入した古墳時代前期と弥生時代の遺物は、各袋から抽出した後、同一のラベルを貼付して、取納コンテナへ戻した。また土器の分類は、以下の基準で行った。

- ①用途 食器・貯蔵・煮沸・その他に分類した。
- ②種別 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器
- ③器種 坏(坏蓋模倣坏・坏身模倣坏・比企型坏・有段口縁坏等)・埴・高台付埴・皿・高台付皿・高坏・壺・鉢・甕・甔等に分類した。
- ④産地 南北比企窯跡群(埼玉県比企郡鳩山町)・末野窯跡群(埼玉県大里郡寄居町)・新治窯跡群(茨城県協和町)等に分類した。なお、産地が不明の個体は、不詳とした。

一覧表では、グリッド・用途・種別・器種・産地

・重量について記載した。この一覧表をもとに第123～133図を作成した。手順は以下の通りである。

まずグリッドのみのデータは、小グリッドの面積に応じて、重量を比例配分した。このデータを小グリッドで取り上げた遺物のデータと合算し、二次データとする。さらに調査区縁辺のデータは、を小グリッドの面積に応じて比例配分し、調査区縁辺が極端に少ない値となる現象を補正した。

この補正データを分類ごとに作成したグリッド網図へ転記し、画像データとした。この画像を数値(重量g)に応じて小グリッドに網をかけることで表現した。つまりどのグリッドへ当該遺物が集中するかを視覚的に確認できるようにした。

網は、当該資料の最大値(a)を五分割した。まず最大値を5で割った値(b)を一段階とし、第一ランク(0～b)第二ランク(b+1～2b)、第三ランク(2b+1～3b)、第四ランク(3b+1～4b)、第五ランク(4b+1～a)とした。そして各ランクを20パーセントごとの網(墨)で表現した。

なお、便宜的に調査区を八つに空間分割して論を進めたい(第122図)。分割の基準は、以下の通りである。調査区全体は、中央を北西から南東に流れる河川によって二分できる。この河川跡の範囲を「中央河川域」とする。

中央河川域の東側には、北から耕作地、集落、古墳群が広がる。古墳群の中には、集落が一部入り込むが、ひとまずここでは「北耕作域」、「東集落域」、「古墳群域」としておく。また西側には、大形の集落が広がり、その南には道路跡、河川跡が続く。また道路跡と中央河川に挟まれた場所は、明確な遺構は確認できず、耕作地や空地であったと考えたい。それぞれ「西集落域」、「道路跡域」、「南河川跡域」とする。

さらに西集落域は、7・8世紀と9・10世紀では、使われ方が大きく異なる。前者では、堅穴住居群と

掘立柱建物跡群で全体が構成され、後者では、二期に亘る区画施設が設けられる。区画の内外は、掘立柱建物と竪穴住居で構成した集落が形成された。

この状況を踏まえ、堆積層中から出土した全出土遺物のデータを合算したのが、第123図である。なお、この図でI21・J21・K21グリッドが、空白となっているのは、ここに土器集中出土地点のデータが入るためである。

また西集落域の9・10世紀の区画溝が通るグリッドには、遺物の堆積が低い。築地か土塁を作るために区画溝を掘削したとき、遺物堆積層を破壊したからであろう。このことを踏まえて、全土器の堆積状況を見ると、当然ながら西集落域に圧倒的な集積がみられ、他は緩慢となる。

なかでも北耕作域と南耕作域の遺物出土量はきわめて少ない。また道路跡域にも少量ながら遺物の出土がみられる。

最下位にランクした約6 kg (5895 g) の内容をさらに細かく分析すると、第124図のようになる。東集落域では、竪穴住居跡の重複が激しいグリッドに一部集積がみられる。また西集落域の集積は、中央河川域や南河川域に向かって徐々に減少していく。

この状況を踏まえると、遺物の集積が、竪穴住居跡の集中地点にあるのではなく、むしろ掘立柱建物跡の集中地点にあることは、特記しておくなければならない。とくに8・9世紀の遺構が、帯状に集中する中央付近に激しい。また河川跡へ傾斜する北斜面と、土器集中出土地点付近の出土量が激しい。

次に分類ごとに遺物の集中傾向、実測した個体の概要についてを記しておく。

i. 土師器・須恵器

土師器の食器

土師器の食器として、データ処理を行った遺物は、坏蓋模倣坏・坏身模倣坏・比企型坏・有段口縁坏・内湾口縁坏・北鳥型暗文土器・坏A・坏B・皿・高坏・鉢である。

小形の土器で時期によって大きさのばらつきはあるが、重量が一定していること、破片資料では口縁部以外の細分が困難であることから一括した。

土師器食器の破片について、小グリッドごとの堆積状況を検討した(第125図)。遺物の分布は、やはり西集落域に集中する。区画溝によって堆積量は、東西に振り分けられるが、本来、斜めの帯状に広がっていたと考えたい。

とくにK13グリッドやN13グリッド、Q15グリッドなどの周辺に集中し、この付近に大形の井戸があることも関係していよう。区画の内部となるこれらの部分では、圧倒的な堆積量をみるが、区画の外部でもH17グリッドやK17グリッド付近に集中的な堆積を確認できる。

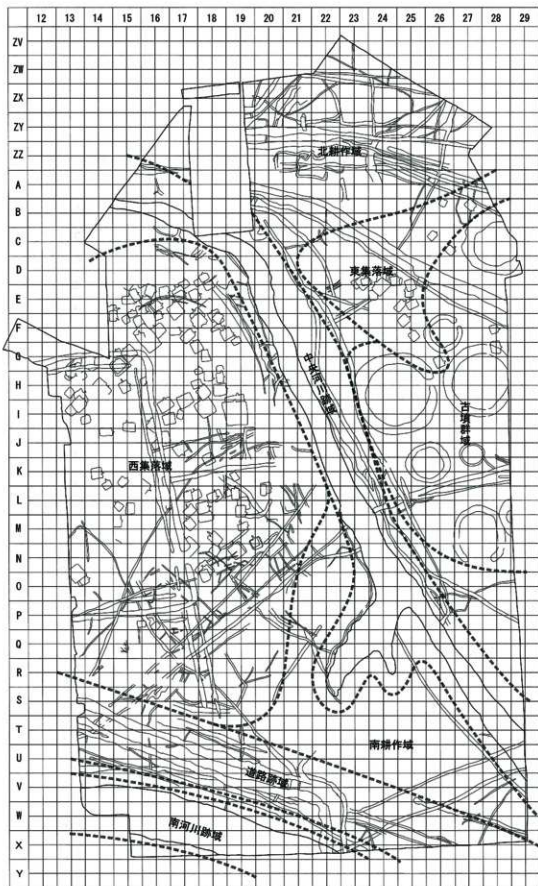
H17グリッドは、堆積層の下に8世紀の廃棄土壌、K17グリッド付近には、竪穴住居跡がみられる。またE15~18グリッドの集中は、下層に竪穴住居跡群があるためであろう。

なお土師器の食器は、須恵器の消費量の増加とともに減少していく傾向にあるため、ここで示した土師器の主体は、6世紀後半から8世紀前半、とくに7世紀代をピークとしている。また土師器の食器の消費が、煮沸具と異なり、竪穴住居跡と共伴する必然性がないため、掘立柱建物跡や河川への傾斜面、井戸の周辺などの場所で廃棄されたので、このような分布状態となったと考えたい。

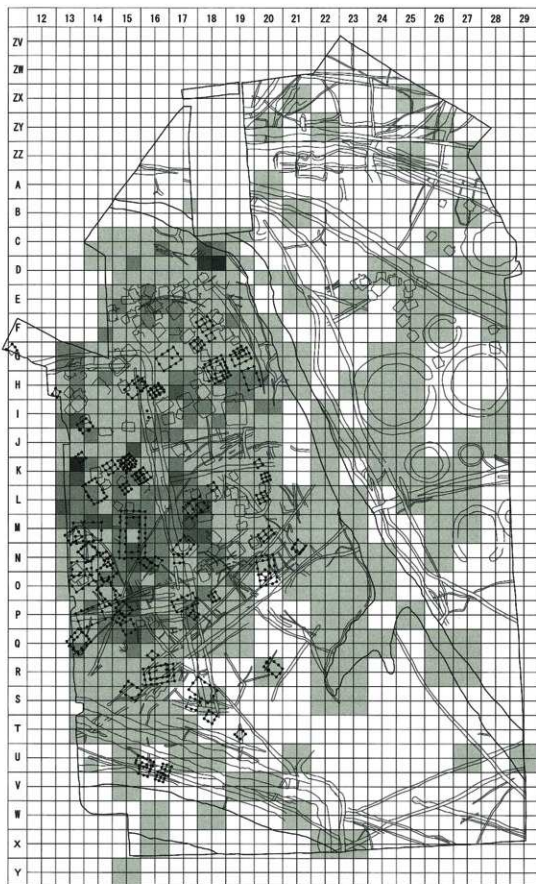
なお、比企型坏の堆積状況についても検討した(第126図)。比企型坏は、中央河川跡から西集落跡に分布するのみであった。集中した地点は、D18グリッドとL14グリッドである。前者は、中央河川跡へ向かう緩傾斜地、後者は、掘立柱建物跡群の中である。他は緩慢な分布である。

以下、実測個体について、器種ごとに述べたい。

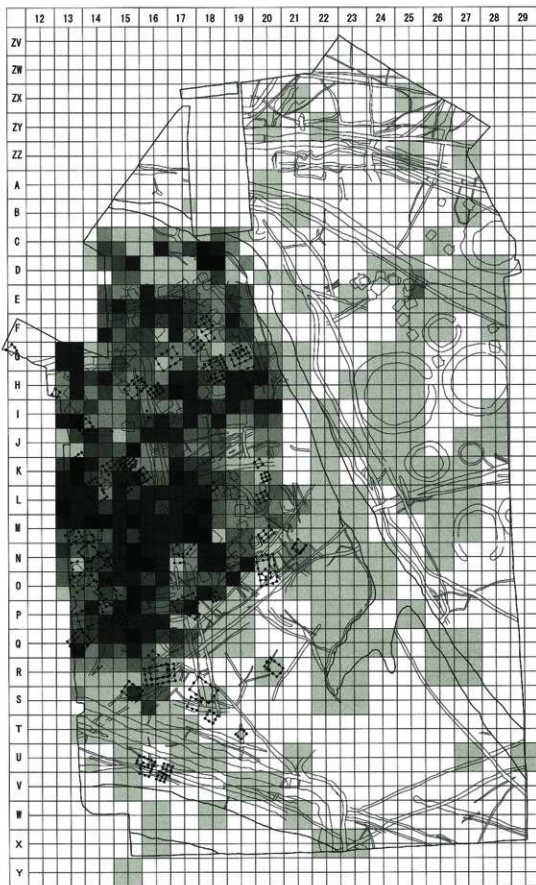
第134図1~7は、坏蓋模倣坏である。須恵器の坏蓋を模倣した食器で底部は九底、緩く外反する口縁部が、屈曲して伸びる。全て利根川水系の原土が用いられている。3の内面には、放射状のミガキが



第122図 第19地点の空間分割



第123図 遺物堆積層出土土器全体の等密分布(1)



第124図 遺物堆積層出土土器全体の等密分布(2)

みられる。黒色処理は施されない。

8・9、11~15は、坏身模倣坏である。須恵器の坏身を模倣した食器である。底部は九底、緩く内湾する口縁が、屈曲して伸びる。全て利根川水系の原土である。黒色処理は、9・12・14に施されている。

10・16は、比企型坏である。両者とも坏身模倣の坏であり、口縁部外面と内面の全体に赤色塗彩が施されている。10は、薄く丁寧な作りであるが、16は、肉厚である。比企・入間の原土が用いられる。

17~31は、有段口縁坏である。坏蓋模倣坏系の土器であるが、口縁部は、二から三段に作られている。19のみ三段である。31のみ有段口縁坏のA類であり、他は、B類である。17・20・24・28は、黒色処理が施されている。

32・33、35~40、第135図6・7は、内湾口縁坏である。口縁部が内側に緩く湾曲する形態の坏で32・35・37のような深めの境形と、39・40のような皿形、第135図6・7のような大振りの境形などがみられる。とくに6・7のような土器は、きわめて薄い作りのため、細片で出土する場合が多い。

第134図34、第135図8~14、18・19、第140図23~25は、坏Aである。器肉が大変薄い土器で扁平な底部から緩やかに内湾する口縁へと続く。底部は粗くヘラケズリが施され、口縁部との境には、指押さえの跡が残る。第134図34、第135図19、第140図24・25は、原土にローム層中の粘土が用いられている。他は、全て利根川水系の原土が用いられている。

第135図1~5は、北島型暗文土器である。内面に細かな放射状の暗文がみられる。半球形の境で口縁部内面に細い沈線がめぐる。暗文は、外面にみられず、螺旋文や雷文などもみられない。底部のヘラケズリは細かく行われている。全て利根川水系の原土が用いられている。

15~17・20は、皿である。15・16は、深めの皿で口縁部は緩く外反する。17は、口縁部が、S字状となる。20は、口縁部が小さく屈曲する。全て利根川水系の原土が用いられている。

21・22は、坏Bである。器内の厚い坏で体部に粗い指押さえの痕跡が残る。なお22の底部には、糸切りがみられ、須恵器の生産者が製作した可能性がある。21は、利根川水系の原土で作られる。22は、末野窯跡群の製品か。

第142図17・18は、高坏である。17は、口縁部が外反する。小形の高坏である。この器形は、6世紀第IV四半期から7世紀第II四半期の間のみみられる。

第144図8は、口縁部が有段口縁となる鉢である。二段で構成され、黒色処理はみられない。利根川水系の原土で作られる。

第144図9は、比企型坏にみられる鉢である。大振りで深めの鉢である。口縁部の外面と内面の全体に赤色塗彩が施されている。比企・入間地域の原土が用いられている。

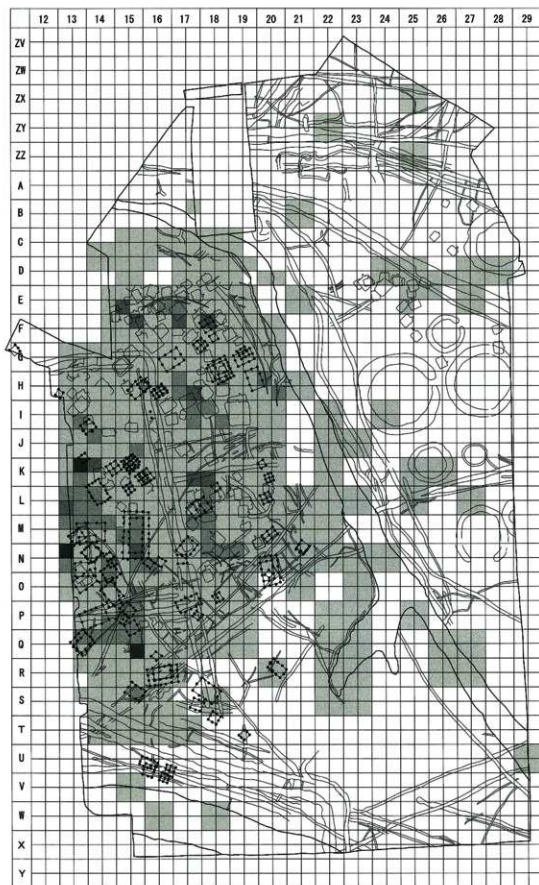
須恵器の食器

須恵器の食器としてアーター処理を行った遺物は、坏蓋・蓋・坏身・無蓋坏・境・高台付境・耳皿・高坏である。これらは、小形の土器で時期によるばらつきはあるが、重量が一定していること、破片資料では、細分が困難であることから一括した。

須恵器の食器の破片は、南比企窯の製品と末野窯跡群の製品、さらに土師質土器について小グリッドごとの堆積状況を検討した(第127~129図)。種別ごとに記述する。

まず南比企窯の食器は、西集落域に集中がみられる。とくに南比企窯の食器が、M15グリッド付近に集中していた。これは、この堆積層の下に大形の井戸(第47号井戸)、それを取り囲むように掘立柱建物跡群があったためである。つまりこの堆積状況は、8世紀後半から9世紀前半にかけて、この井戸を中心に食器の廃棄が行われたことを示し、一部の食器は、これらの掘立柱建物跡に保管されていたためと考えたい。

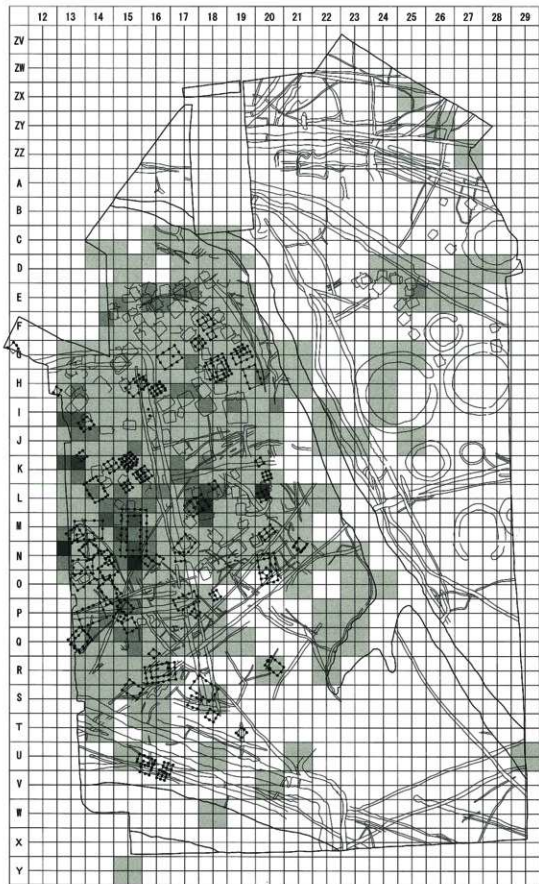
またE15~16グリッドと、L18グリッドの土器の集中は、下層に竪穴住居があることから、この覆土



第125図 遺物堆積層出土の土師器食器の等密分布



第126図 遺物堆積層出土の土師器食器（比企型杯）の等密分布



第127図 遺物堆積層出土の須惠器食器（南比企）の等密分布

中の遺物であるかもしれない。

東集落域では、堅穴住居跡の重複する E25グリッドを中心に散漫な土器の出土がみられる。中央河川跡域、南耕作域、道路跡域でも僅かながら確認できる。

また末野窯跡群の食器は西集落域に集中する。しかし南比企窯跡群の製品と比較すると、堆積の主体が、僅かながら南へ移動することは注目すべきである。つまり末野窯跡群の食器が、主体的に消費されるのが、区画施設の設置以降からである。

この時期には、大形の五間四面屋（第36号掘立柱建物跡）が建てられ、この建物を中心として遺物が集中する。遺物が O15グリッド以北に最も集中するのはこのことによる。

一方、西集落域の北部から東部にかけては、遺物の堆積が散漫になること、四脚門の北に遺物が集中することなどの特色がみられる。またその他の空間では、散漫な分布に止まる。

最後に土師質土器である。土師質土器の堆積状況は、末野窯の食器の堆積状況と共通する。西集落域に集中する傾向は共通するが、分布範囲が縮小化した。とくに区画溝の北側では、土師質土器の出土のないグリッドが存在する。

やはり第36号掘立柱建物跡を中心とした場所に出土が多い。また区画溝を挟んで東西に分布が多い点は注目すべきであろう。さらに古墳群域や東集落域などからの出土もみられる。

なお、東海地方で生産されたの食器や群馬県中州市秋間窯跡群で生産された食器について、小グリッドごとの分布状況を示す同様の図を作図した。しかし資料数が少なく、ここではあえて図を掲載しなかった。

以下、実測した個体について、器種ごとに概略を述べたい。

【坏蓋】 第135図23～第136図19は、坏蓋である。23は、つまみが欠落した跡である。口縁部が内傾し、高坏や短頸壺の蓋の可能性もある。畿内産か。24は、

有蓋高坏の蓋か口径の大きな坏の蓋と考えた。口縁部が「ハ」の字状に外傾する。南比企窯跡群の製品である。25は、口縁部が、内傾する蓋である。欠損しているが、短頸壺の蓋であろう。南比企窯跡群の製品である。

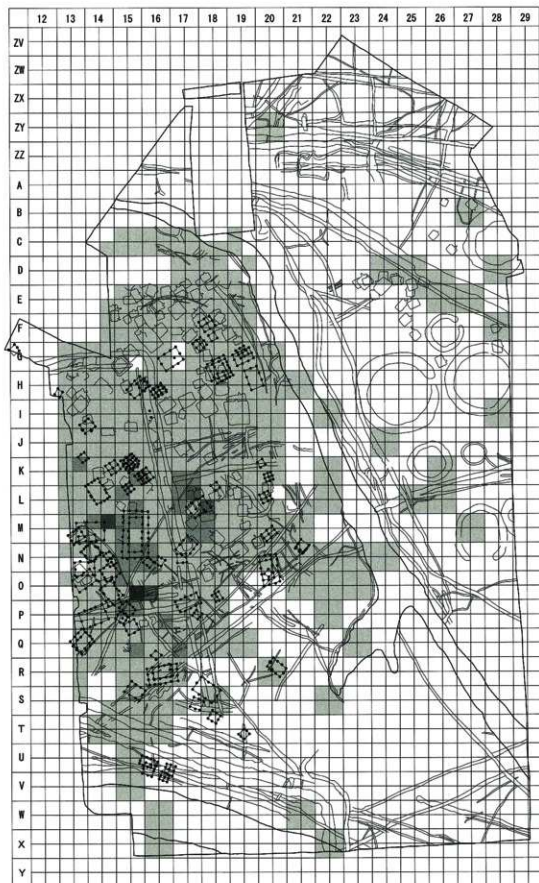
26～30は、合子形の坏の蓋である。26は、小形の坏蓋である。扁平で「ハ」の字形に口縁部が開く。天井部は、手持ちヘラケズリが施される。群馬県太田市金山窯跡群の製品か。27～30は、ドーム形の高い天井部となる蓋で、口縁部が内屈する。31～33も同様の器形となるであろう。天井部は、回転ヘラ切りである。27～33は、静岡県湖西市湖西窯跡群の製品である。なお31は、天地が逆となり、坏身である可能性もある。31のみ愛知県名古屋市猿投窯跡群の製品かもしれない。

34～42は、小さな返りの付いた蓋で、36・37・39・41・42には、天井部につまみの痕跡が見られる。39や40は、返りが大きくきついため長頸瓶の蓋かもしれない。36は、軟質で白色に焼き上がり、天井部を手持ちヘラケズリで調整している点などから、金山窯跡群か群馬県高崎市乗原窯跡群で生産された製品であろう。40・42は末野窯跡群、41は秋間窯跡群、他は湖西窯跡群で生産された製品と考えた。なお36は、酸化炎焼成である。

第136図1～11は、小さな返りを持った蓋である。口唇部が欠損するが、12も同類であろう。1～5までは、返りから口唇部までが短い、6～11は、長くなっている。天井部が不明な点もあるが、おそらく全てつまみが付く。1・4・7・9～12は、末野窯跡群の製品である。2・5・8は湖西窯跡群、3は金山窯跡群、6は秋間窯跡群の製品である。

13～16は、爪形の小さな返りがついた蓋である。天井部につまみはない。13・16が南比企窯跡群、他が末野窯跡群である。13～15の天井部外面に墨書がある。13は「家」、14は「綱」、15は「克男」である。

17～19も蓋である。17は、宝珠つまみの蓋である。湖西窯跡群の製品である。18は、ボタン状つまみの



第128図 遺物堆積層出土の須恵器食器（末野）の等密分布

蓋である。南比企窯跡群の製品である。19は、小破片であるが、天井部外面に「綱」と墨書がある。末野窯跡群の製品である。

【坏身】 第136図20～第137図3は、坏身である。第135図の24～30のような蓋と組み合う。20～28は、返りの付いた合子形の坏である。29・30も同様であろう。20は内傾する深めの坏身で器肉が厚く、底部の回転ヘラ切りが明瞭である。22・23は、口縁部の返りが厚く、緩やかに立ち上がる。24は、返りが極端に小さい。他は薄くシャープに作られ、口唇部で小さく外反する。以上の特徴や胎土などから20は畿内産、22・23は南比企窯跡群、24は秋間窯跡群、他は湖西窯跡群の製品と考えた。

第136図31～第137図1は、返りのない坏である。第135図34～第136図7のような蓋と組み合う。底部は回転ヘラキリで切り離される。34と第137図1は、切り離れた後、底部の周囲を手持ちヘラケズリを施している。全て末野窯跡群の製品である。

第137図2～19までは、底部を回転ヘラ切りで切り離れたか、回転ヘラケズリで調整した製品である。底径の大きい順に掲載している。2は、口径の大きな坏で、第136図10のような蓋が付くのであろう。回転ヘラ切りは、2・4・10・12などである。なお3の底部と口縁部の境は、削り出し高台状となる。

2・10・16は、末野窯跡群の製品、12は新治窯跡群の製品である。3・19は、秋間窯跡群の製品か。他は、全て南比企窯跡群の製品である。

6・7・11の底部中央には、寛書で「大」と刻書がみられる。また9・14・15・18には、墨書がみられる。9は、口縁部外面に「第成」、14・15・18は、底部に「綱」と墨書されている。

なお16の底部中央には、紡錘車として再利用しようとしたのであろうか、貫通しない小孔がみられる。

第137図20～第139図16は、底部の周辺に回転ヘラケズリを施した土器である。これも底径の大きい順に掲載している。第138図8のみ末野窯跡群で他は、南比企窯跡群の製品である。なお第138図9と13は、

酸化炎焼成である。

刻書は、以下の土器にみられる。全て底部外面である。第137図20、第138図2・5・7・9・18・19は、「×」または「十」、11・12は、「一」または「ノ」、16・第139図5は、「大」、第138図20は、「七」、第139図6も「七」か。

墨書は、第137図22・23、第138図3・6・8・10・13・17、第139図1・3・7・10～12にみられる。判読できた文字は、全て「綱」である。第137図23は「宝口」、第138図3は「土万」かもしれない。また第138図6は、判読できない。

第139図17～第140図19・28～30は、回転系切り未調整の底部である。これも底径の大きい順に掲載した。第139図17、第140図28～30は、土師質土器である。29は、利根川水系の粘土を原土としている。他は、ローム台地の粘土を原土としている。30の底部周辺は、手持ちヘラケズリが施されている。

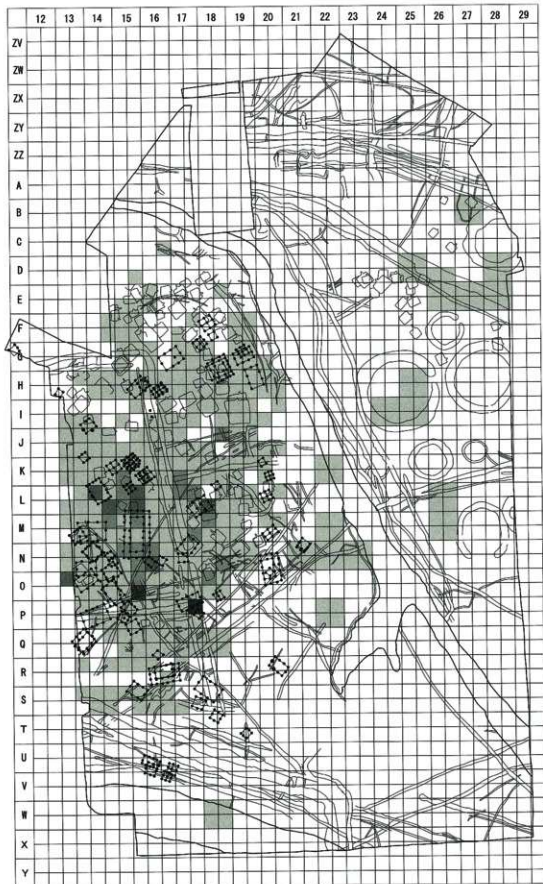
第139図26～28、第140図3・10～12は、末野窯跡群の製品である。第140図3を除き底部が、薄く扁平な円盤状となり、そこから直線的に伸びる口縁へ続く均質な坏である。第139図23、第140図8・15は、南比企窯跡群の製品である。

以下は、還元炎焼成の製品である。第139図20、25・第140図5・9・14は、南比企窯跡群の製品である。第140図2・13・18は、埼玉県入間市東金子窯跡群の製品である。

刻書は、以下の土器にみられる。全て底部外面である。第139図23は「×」または「十」、25は「卅(二十)」、第140図8は、「卅(四十)」、9は、「W」(ジグザグ)である。

墨書は、第139図19・20・21・22、第140図1・2・3・5・6・7にみられる。第139図19は「西」、第140図2は「木」であり、他は、第140図1を除き「綱」である。第140図1は、判読できない。

第140図20～27は、墨書土器の破片である。21は「我」、22は「第」、20・23・24・26は「綱」、25は「土万」、27は「中」と記されていた。なお20・21



第129図 遺物堆積層出土の土師質土器の等密分布

は末野窯跡群、22・26・27は南比企窯跡群で生産された須恵器の坏である。23は利根川水系、24・25は、ローム台地の粘土を原土とした土師器の坏である。

〔碗〕

第140図31は、無台碗である。底部は、糸切り未調整である。南比企窯跡群の製品である。

〔高台付碗〕

第140図32・33、第141図1～第142図11は、高台付碗である。第140図32・33は、硬質で薄い作りである。高台は、角形である。湖西窯跡群の製品であろう。第141図1～5は、器内がやや厚く、高台が太く大きい角形である。器表に黒い斑をみることができ、秋間窯跡群の製品であろう。

第141図6も角形の高台だが、結晶片岩粒や石英などから末野窯跡群の製品であろう。以上の底部はヘラ切り、またはヘラケズリが施されている。

第141図7～9・11は、底径の大きな高台付碗である。底部は糸切りである。全て末野窯跡群の製品である。

12・13は、高台付盤である。底部は、回転ヘラケズリされている。10は、茨城県若潮町堀の内窯跡群か。12・13は、末野窯跡群の製品であろう。

第141図14～第142図10は、糸切りの後に高台を付けた高台付碗である。第142図4・10は、酸化炎焼成の土器である。利根川水系の原土が用いられている。他は、末野窯跡群の還元炎焼成である。第142図6の内面には、「十」と刻書がある。第142図3・8には、「網」と墨書がみられる。大量の雲母片岩を含む土器である。外面は、ヘラケズリが施されている。

〔耳皿〕

第142図12・13は、酸化炎焼成の耳皿である。高台が付く。利根川水系の原土が用いられている。

〔高坏〕

第142図17～31は、高坏である。19は、硬質で焼き締まった無蓋高坏である。大阪府堺市陶邑窯跡群の製品か。20・21は、口縁部に沈線を施した無蓋高

坏である。22も無蓋高坏である。三者は、末野窯跡群の製品である。以上は、口縁部のみである。

23は、三方透の長脚高坏である。24は、透のない長脚高坏である。25は、透のない二段長脚高坏である。26は、四方二段透長脚高坏である。27は、二段三方透長脚高坏である。28は、三方透長脚高坏である。29は、二方透長脚高坏である。30は、三方二段透長脚高坏である。31は、四方透長脚高坏である。

23・26は南比企窯跡群、24・25は湖西窯跡群、30は陶邑窯跡群、27・29・31は末野窯跡群の製品であろう。

黒色土器

黒色土器は、塊・高台付塊・鉢などを一括してデーター処理を行った。資料数も少なく、時期的にまとまっているためである。

黒色土器の破片について第130図では、小グリッドごとの堆積状況を示した。やはり西集落域からの出土が多く、他はきわめて散漫である。西集落域でも区画溝から南のエリアに多く堆積し、とくに集中する傾向はない。資料数の制約もあろうが、散漫な状況である。しかし黒色土器が、後に述べる羽釜と共通した分布域、堆積量を示すことは特記しておく。

〔鉢〕

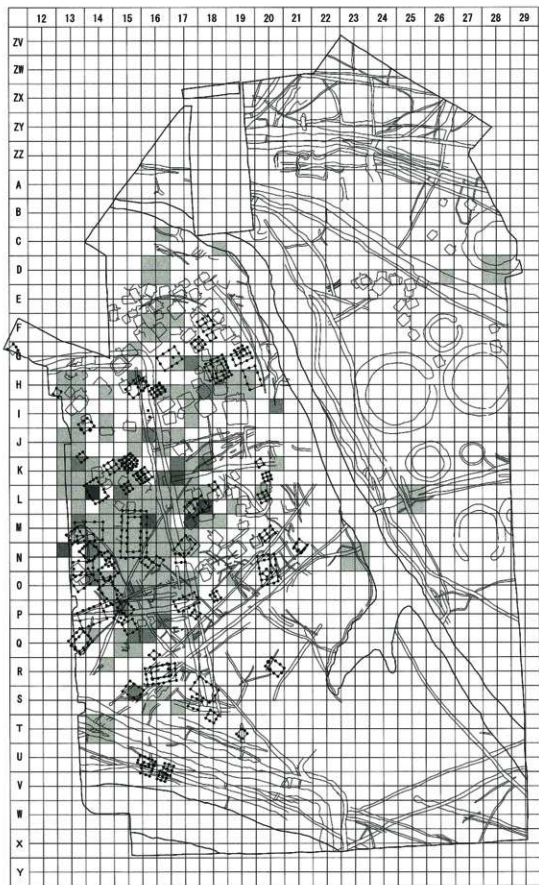
第142図14は、無台の鉢である。内面に横位の細かなヘラミガキを加えた後、黒色処理を施す。底部は未調整である。利根川水系の原土が用いられる。

〔高台付碗〕

第142図15・16は、高台付碗である。15は、小形の製品で高台が大きく「ハ」の字状に開く。内面は、横位に細かくヘラミガキを行い、淡い黒色処理を施す。16は、大振りの碗である。内面にはヘラミガキを施さない。利根川水系の原土が用いられる。

須恵器貯蔵具

須恵器貯蔵具として扱った遺物は、脚付壺・短頸



第130図 遺物堆積層出土の黒色土器の等密分布

壺・甕・平瓶・壺G・小壺・提瓶・フラスコ形瓶・長頸瓶・甕などの小形品から大形品まで多種多様である。しかし胴部破片のみでは、貯蔵具と判断できても、それ以上の分類が不可能な場合が多く、ここでは一括した。

須恵器貯蔵具の破片について第131図では、小グリッドごとの堆積状況を示した。やはり西集落域に集中して土器が堆積していた状況を窺うことができる。須恵器の貯蔵具は、中央南側と北側の傾斜面に多く堆積し、とくに区画溝の内側には、多く堆積していた。調査時に貯蔵具を集積したような建物跡を確認することはできなかった。

しかしG13グリッドやD18グリッドなどには、土器の集中がみられ、一定の場所に集積された状況を見て取れる。完形品や大形破片などの図化可能な遺物は、みられなかった。このことから破片を廃棄する際に集積した場所であり、遺構に据え付けたり保管された状態ではなかったと考えたい。

【脚付壺】

第143図1・4は、脚の付いた壺である。1は、肩部に二条の沈線がめぐり、表面には自然釉が附着する。4の脚部は、胴部と口縁部を成形した後、転倒させて甕の口縁状に仕上げている。両者は、秋間窯跡群の製品である。

【短頸壺】

第143図2・3は、口縁部の短い壺である。3の口唇部内面には、緩い沈線がめぐり、また胴部と肩部の境にも緩い沈線がめぐり、両者とも南比企業跡群の製品である。

【甕】

第143図5～12は、甕である。5は、胴部中央を二条の沈線で区画し、その中に波状文を描く。肩部にも細かな波状文が描かれる。胴下半には、細かなカキ目が施される。湖西窯跡群の製品であろう。

6は、胴部中央を沈線で区画した後、木口状工具で連続した斜めの刺突文を描く。胴下半はヘラケズリの痕跡が顕著である。末野窯跡群の製品である。

7は、頸部から口縁部にかけての製品である。頸部の付け根はやや広い。突線がめぐり、口縁部側に沈線もめぐり、猿投窯跡群の製品か。

8は、口縁部の一部を欠いた完形の甕である。口縁部は大きくラップ状に開く。頸部との境に低い突線と沈線がめぐり、頸部には細かなカキ目がめぐり、頸部の中央には、二条の沈線がめぐり、頸部を二分している。胴部の中央には、上部と下部を沈線で分割し、木口状工具で連続した斜めの刺突文を描く。

注口部は、円形の穴を斜めに開けていたが、焼成後に縁を打ち欠く。この部分に漆が附着することから管状の植物製品を装着したと考えたい。なお底部はロクロ成形の後、細かくヘラケズリされる。

また底部が別の器と附着していたらしく、大きく剥がれた跡がみられる。焼成時に焼台と癒着したのか、子持ち壺のような別の器の付属物であったのだろう。この甕は、子持ち壺がみられない時期の製品なので、前者と考えたい。末野窯跡群の製品である。

9は、頸部の破片である。細い頸部で細かな波状文がめぐり、南比企業跡群の製品である。

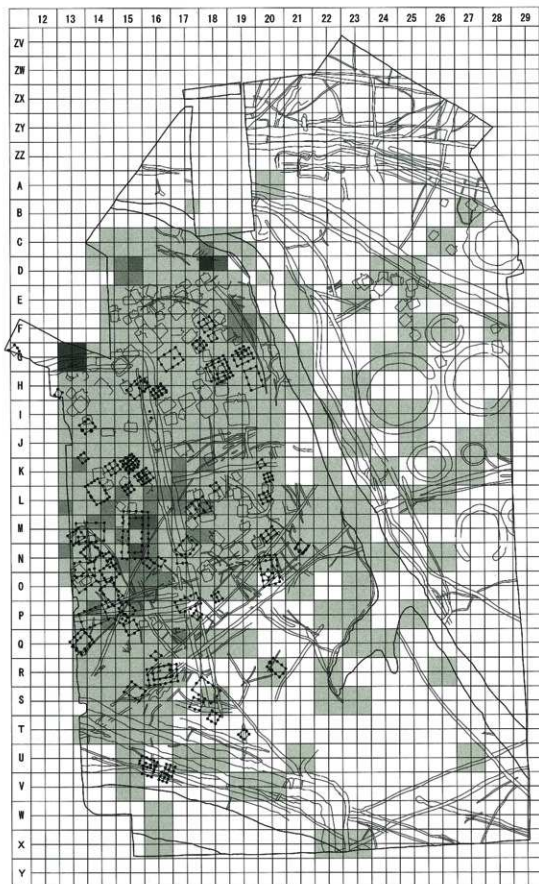
10も頸部の破片である。細く長い頸部であろう。中央の沈線で頸部は二分され、下位に細かな波状文を施す。末野窯跡群の製品である。

11は、下影らみの胴部から細い頸部が続く形態である。胴部の中央やや高い位置には、二条の沈線で区切られた中に斜めの連続刺突文が施される。南比企業跡群の製品である。

12は、肩部から胴中央部の破片である。胴部中央には、沈線で区切った中に縦の連続刺突文が施される。東海地方の製品であろう。

【平瓶】

第143図13～16・18は、平瓶である。13は、口縁の一部を欠損するが、完形の平瓶である。頸部のやや高い位置に沈線がめぐり、肩部には、口縁部と平行してリング状の沈線がめぐり、肩部には、細かなカキ目が施され胴上半全体に及ぶ。胴下半は、ロクロから切り離されたときの粗いヘラケズリの跡が残



第131図 遺物堆積層出土の須恵器貯蔵具の等密分布

り、また細い四条の刻書を確認することができる。
末野窯跡群の製品である。

14は、胴部上半のみの製品である。亀甲状の胴部となる。口唇部が、突線による多段構成となっており、同時期のフラスコ形土器と共通する。硬質な焼き上がりで、湖西窯跡群の製品であろう。

15は、胴部上半と頸部の一部が残る製品である。扁平な天井部で、小形の製品である。末野窯跡群の製品である。

16と18は、口縁部の破片である。胴部とのつながりが明らかではないため、長頸瓶や提瓶の口縁部である可能性も残る。18は、口縁やや下に二条の沈線がめぐり、16は南比企窯跡群、18は、末野窯跡群の製品である。

〔長頸瓶〕

第143図17、第144図14～19は、長頸瓶である。第143図17は、小形の長頸瓶である。ラッパ状に広がる口縁部のやや下に二条の沈線がめぐり、湖西窯跡群の製品である。第144図14・15は、大形の長頸瓶の頸部である。湖西窯跡群の製品である。

16は、小形の長頸瓶の口縁部である。17は、頸部径の広い土器で横瓶の可能性もある。18・19は、長頸瓶の胴下半である。18は高台が大きく外に踏ん張り、内側上がるが、19は角高台状である。16・18は、東海地方の製品、17・19は、末野窯跡群の製品である。

〔提瓶〕

第144図10は、提瓶である。土が大変粘り強く重い。胴部には、同心円状に描かれたカキ目がみられる。肩部やや上位に下向きの把手が付く。産地不詳。

〔フラスコ形瓶〕

第144図11～13は、フラスコ形瓶である。11は、胴部側面にタタキ目の痕跡が残る。12は、胴部上半に自然軸が付着している。13は、口縁部から頸部にかけての部分である。口縁部は、受け口状となる。全て湖西窯跡群の製品である。

〔壺 G〕

第143図19・第144図5は、いわゆる壺 G である。第143図19は、肩部と胴部の一部である。境目に沈線が引かれる。酸化炎焼成で焼きが甘い。南比企窯跡群の製品である。第144図5は、胴下半が残存する。きわめて薄く硬質である。底部の周囲はヘラケズリが施されている。東金子窯跡群の製品である。

〔小壺〕

第143図20～23は、小形の壺である。20は、底部を欠くが、胴下半に細かなカキ目がみられるため丸底と考えた。21は、肩部に粗いカキ目がめぐり、胴部は粗いヘラケズリで調整されている。末野窯跡群の製品である。22・23は、平底の小形壺である。底部の周囲にヘラケズリを施す。南比企窯跡群の製品である。

〔甕〕

第146図8～13は、須恵器の甕である。須恵器の甕の破片は大量に存在するが、口径復元を行える資料は少なく、8・9の僅か2点である。南比企窯跡群の製品である。

10～12は、いわゆる頸部補強帯大甕である。断面台形の粘土紐が、頸部と胴部の境をめぐり、口縁部の文様は明らかではないが、沈線と波状文で構成され、最下段に沈線が引かれる。12は、「>沈線-波状文-沈線-波状文-沈線-無文帯-補強帯」となる。3点とも末野窯跡群の製品である。13は、甕の胴部破片であり、細かなタタキ目がみられる。

土師器貯蔵・煮沸具

土師器の貯蔵・煮沸具として扱った遺物は、甕・甕・羽釜・獸脚・支脚などである。破片資料が多いため、全体の復元が可能な個体は少ない。また胴部破片だけでは、全体像をつかみにくいので一括した。

土師器の貯蔵・煮沸具の破片について、第132図で小グリッドごとの堆積状況を示した。やはり西集落域に土器が集中するが、東集落域や中央河川域、北耕作域にもみられる。しかしその出土量は、圧倒的に少なく、西集落域とは比較にならない。